明治二十五年三月三十一日第三種郵便物認可

官報　號外　昭和十八年二月十三日

○第八十一回帝國議會衆議院議事速記錄第十號

昭和十八年二月十二日(金曜日)

午後一時六分開議

議事日程　第九號

昭和十八年二月十二日

午後一時開議

第一　兵役法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)　第一讀會

第二　共通法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)　第一讀會

第三　明治三十八年法律第三十八號改正法律案(俘虜處罰ニ關スル件)(政府提出、貴族院送付)　第一讀會

第四　陸軍軍法會議法及海軍軍法會議法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)　第一讀會

第五　商工經濟會法案(政府提出、貴族院送付)　第一讀會

第六　商工組合法案(政府提出、貴族院送付)　第一讀會

第七　商工組合中央金庫法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)　第一讀會

第八　帝國鑛業開發株式會社法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)　第一讀會

第九　重要鑛物增産法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)　第一讀會

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス)

一去十日貴族院ヨリ受領シタル政府提出案左ノ如シ

在滿日本人ノ身分ニ關スル滿洲國裁判ノ效力ニ關スル法律案

裁判所構成法中改正法律案

陪審法ノ停止ニ關スル法律案

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

一億圓懸賞改良發明發見募集ニ關スル建議案

提出者　星　一君

(以上二月九日提出)

一去十日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

(臨第一號)臨時軍事費豫算追加案

(追第二號)豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

一去九日東條内閣總理大臣ヨリ左ノ通發令アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

文部書記官　清水　虎雄

第八十一回帝國議會文部省所管事務政府委員被仰付

一去九日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ

郵便年金法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)外二件委員

青木　精一君　石田　善佐君
植松　練磨君　宇田　耕一君
川上　胤三君　川副　隆君
木原　七郎君　喜多壯一郎君
近藤英次郎君　坂口平兵衞君
下出　義雄君　鈴木　忠吉君
角　猪之助君　宗前　清君
東條　貞君　中井川　浩君
中川　重春君　林　正男君
肥田　琢司君　深澤　吉平君
藤生安太郎君　松浦周太郎君
松田竹千代君　牧野　良三君
眞崎　勝次君　最上　政三君
八角　三郎君

國民貯蓄組合法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)外一件委員

池田正之輔君　小澤　治君
小山倉之助君　片山　一男君
木下　義介君　藏原　敏捷君
駒井　重次君　下出　義雄君
永田　良吉君　長野　高一君
南鄕　武夫君　西尾　末廣君
古田喜三太君　山口左右平君
山田　順策君　山野　平一君
由谷　義治君　吉田貞次郎君

北支那開發株式會社法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)外二件委員

赤尾　敏君　赤松　寅七君
新井　堯爾君　大島　高精君
加藤　弘造君　加藤　七郎君
金子　定一君　河上丈太郎君
神尾　茂君　菅野和太郎君
木村　武雄君　岸井　壽郎君
楠美　省吾君　小谷　節夫君
齊藤　正身君　笹川　良一君
白鳥　敏夫君　鈴木　正吾君
高岡　大輔君　高見　之通君
手代木隆吉君　中谷　武世君
中西　敏憲君　原口　純允君
原　玉重君　福家　俊一君
山中　義貞君

藥事法案(政府提出、貴族院送付)外二件委員

赤間　德壽君　逢澤　寛君
伊藤東一郎君　池本甚四郎君
今牧　嘉雄君　上田　孝吉君
江藤源九郎君　大石　齊治君
大島　寅吉君　勝又　春一君
木崎　爲之君　岸田　正記君
小泉　純也君　齋藤　憲三君
佐藤　芳男君　清水留三郎君
菅又　薫君　杉山元治郎君
田中　藤作君　高見　之通君
竹内　俊吉君　武知　勇記君
谷原　公君　中井　一夫君
西尾　末廣君　坂東幸太郎君
深澤豐太郎君　藤生安太郎君
藤本　捨助君　松本治一郎君
正木　清君　三宅　正一君

山口喜久一郎君　山田　順策君
山崎　常吉君　渡邊　健君

一去九日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ

日本證券取引所法案(政府提出)外四件委員
辭任瀧澤　七郎君　補闕加藤　鯛一君

石油專賣法案(政府提出)外二件委員
辭任木原　七郎君　補闕安田　桑次君

農業保險法中改正法律案(政府提出)外三件委員
辭任安田　桑次君　補闕木原　七郎君

北海道鐵道株式會社所屬鐵道外十一鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)外一件委員
辭任愛野時一郎君　補闕林　信雄君

臨時利得税法中改正法律案(政府提出)外十一件委員
辭任原口　純允君　補闕小高長三郎君

一去十日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

郵便年金法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)外二件委員
委員長　八角　三郎君
理事
木原　七郎君　中川　重春君
肥田　琢司君　藤生安太郎君

國民貯蓄組合法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)外一件委員
委員長　由谷　義治君
理事
木下　義介君　西尾　末廣君
山口左右平君

北支那開發株式會社法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)外二件委員
委員長　手代木隆吉君
理事
楠美　省吾君　齋藤　正身君
鈴木　正吾君　高岡　大輔君
原　玉重君

藥事法案(政府提出、貴族院送付)外二件委員
委員長　清水留三郎君
理事
大石　齊治君　勝又　春一君
小泉　純也君　田中　藤作君
竹内　俊吉君　渡邊　健君

一去十日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ

北海道鐵道株式會社所屬鐵道外十一鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)外一件委員
辭任綾部健太郎君　補闕田中　好君
辭任勝又　春一君　補闕南條　徳男君

郵便年金法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)外二件委員
辭任牧野　良三君　補闕新井　堯爾君

○副議長(内ケ崎作三郎君)　是ヨリ會議ヲ開キマス、御諮リ致シマス、第五部選出決算委員中川重春君、第八部選出建議委員伊藤東一郎君、右常任委員辭任ノ申出ガアリマス、之ヲ許可スルニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○副議長(内ケ崎作三郎君)　御異議ナシト認メマス、仍テ許可スルコトニ決シマシタ、其ノ部ノ諸君ハ速カニ補闕選擧ヲ行ヒ、御届ケアランコトヲ望ミマス、尚ホ日本證券取引所法案外四件委員長、東京都制案委員長、農業團體法案外一件委員長、戰時行政特例法案外二件委員長及ビ石油專賣法案外二件委員長ヨリ本日本會議中委員會ヲ開キタイトノ申出ガアリマス、何レモ之ヲ許可スルニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○副議長(内ケ崎作三郎君)　御異議ナシト認メマス、仍テ之ヲ許可致シマス――日程第一乃至第四ハ便宜上一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○副議長(内ケ崎作三郎君)　異議ナシト認メマス、仍テ日程第一、兵役法中改正法律案、日程第二、共通法中改正法律案、日程第三、明治三十八年法律第三十八號改正法律案、日程第四、陸軍軍法會議法及海軍軍法會議法中改正法律案、右四案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス――東條陸軍大臣

第一　兵役法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)　第一讀會

第二　共通法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)　第一讀會

第三　明治三十八年法律第三十八號改正法律案(俘虜處罰ニ關スル件)(政府提出、貴族院送付)　第一讀會

第四　陸軍軍法會議法及海軍軍法會議法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)　第一讀會

兵役法中改正法律案

兵役法中左ノ通改正ス

第九條第二項及第二十三條第一項中「戸籍法」ノ下ニ「又ハ朝鮮民事令中戸籍ニ關スル規定」ヲ加フ

第三十九條第一項第六號中「矯正院法」ノ下ニ「又ハ朝鮮矯正院令」ヲ加ヘ同項第五號ヲ左ノ如ク改ム

五　少年法ノ定ムル所ニ依リ少年教護院、矯正院若ハ病院ニ收容中ナルトキ又ハ朝鮮少年令ノ定ムル所ニ依リ朝鮮總督府感化院、朝鮮總督府矯正院若ハ病院ニ收容中ナルトキ

第五十二條第一項ヲ左ノ如ク改ム

戸籍法及朝鮮民事令中戸籍ニ關スル規定ノ適用ヲ受ケザル者ニシテ徴兵適齡ヲ過ギ戸籍法又ハ朝鮮民事令中戸籍ニ關スル規定ノ適用ヲ受クル者ノ家ニ入リタルモノニ對シテハ徴集ヲ免除ス

第五十三條ノ二　左ニ掲グル者ノ徴集ニ關シテハ第二十六條、第二十七條又ハ第二十九條ノ規定ニ對シ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

一　戸籍法ノ適用ヲ受クル者ニシテ朝鮮、臺灣又ハ帝國外ノ地ニ在留スルモノ

二　朝鮮民事令中戸籍ニ關スル規定ノ適用ヲ受クル者

第六十九條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ニ規定スル事務ノ監督ニ付テハ戸籍事務ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第七十二條　本法中市町村長ニ關スル規定ハ市町村長ニ準ズベキ者ニ之ヲ適用ス但シ市長ニ關スル規定（第六十一條ノ規定ヲ除ク）ハ區長（之ニ準ズベキ者ヲ含ム以下同ジ）ヲ以テ戸籍ニ關スル事務ヲ管掌スル者ト爲シタル市（之ニ準ズベキモノヲ含ム）ニ在リテハ區長ニ之ヲ適用ス

附　則

本法ハ昭和十八年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第九條第二項及第二十三條第一項ノ改正規定ハ本法施行ノ際徴兵適齡ヲ過ギ居ル者及徴兵適齡ノ者ニシテ其ノ際現ニ朝鮮民事令中戸籍ニ關スル規定ノ適用ヲ受クルモノ又ハ本法施行後其ノ適用ヲ受クルニ至リタルモノ（第三條ノ規定ニ該當スル者ヲ除ク）ニ之ヲ適用セズ

前項ノ規定ニ該當スル者ニ付テハ第五十二條第一項ノ改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル

共通法中改正法律案

共通法中左ノ通改正ス

第三條第三項中「戸籍法」ノ下ニ「又ハ朝鮮民事令中戸籍ニ關スル規定」ヲ加ヘ「他ノ地域」ヲ「內地及朝鮮以外ノ地域」ニ改ム

附　則

本法ハ昭和　　年法律第　　號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際徴兵適齡ヲ過ギ居ル者及徴兵適齡ノ者ニシテ其ノ際現ニ戸籍法ノ適用ヲ受クルモノ又ハ本法施行後其ノ適用ヲ受クルニ至リタルモノニ付テハ第三條第三項ノ改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル

明治三十八年法律第三十八號改正法律案

俘虜處罰法

第一條　本法ハ俘虜ニシテ罪ヲ犯シタルモノニ之ヲ適用ス

第二條　多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三條　俘虜ヲ監督シ、看守シ又ハ護送スル者ヲ殺シタル者ハ死刑ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ通謀ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第四條　俘虜ヲ監督シ、看守シ又ハ護送スル者ヲ傷害シ又ハ之ニ對シ暴行若ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ二年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス

黨與シテ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス

前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第五條　俘虜ヲ監督シ、看守シ又ハ護送スル者ノ命令ニ反抗シ又ハ之ニ服從セザル者ハ死刑又ハ無期若ハ一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス

黨與シテ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑又ハ無期若ハ二年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス

第六條　俘虜ヲ監督シ、看守シ又ハ護送スル者ヲ其ノ面前ニ於テ又ハ公然ノ方法ヲ以テ侮辱シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七條　黨與シテ逃走シタル者ハ首魁ハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第八條　第二條第一項、第三條第一項、第四條第一項及第二項竝ニ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第九條　宣誓解放ヲ受ケタル者其ノ宣誓ニ背キタルトキハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス

前項ノ者兵器ヲ執リ抗敵シタルトキハ死刑ニ處ス

第十條　逃走セザル旨ノ宣誓ヲ爲シ之ニ背キタル者ハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ宣誓ニ背キタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第十一條　不從順ノ行爲ヲ目的トシテ黨ヲ結ビタル者ハ首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ六月以上五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第十二條　第七條ノ規定ハ再ビ俘虜ト爲リタル者ノ前ニ俘虜タリシトキ犯シタル罪ニハ之ヲ適用セズ

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍軍法會議法及海軍軍法會議法中改正法律案

第一條　陸軍軍法會議法中左ノ通改正ス

第四十二條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ奏任ト爲スコトヲ得

第二條　海軍軍法會議法中左ノ通改正ス

第四十二條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ奏任ト爲スコトヲ得

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣東條英機君登壇〕

○國務大臣（東條英機君）　只今議題ト相成リマシタル兵役法及ビ共通法中改正法律案ノ提案理由ニ付キマシテ申述ベタイト存ジマス、今次ノ改正ハ、朝鮮同胞ノ服役ニ關聯スル事項デアリマス、卽チ昭和十九年ヨリ朝鮮同胞ヲ徴集致シマシテ、今後長期ニ亙ルベキ大東亞戰爭ノ完遂ト、將來國防ノ完璧トヲ期シマスルト共ニ、皇民敎育ノ徹底ト、時局認識ノ昂揚トニ依リマシテ、近年頓ニ昂揚セラレマシタ朝鮮同胞銃後奉公ノ赤誠ニ應ヘテ、多年ノ要望タル皇軍ノ兵員ニ加ヘルノ榮譽ヲ與ヘ、倂セテ朝鮮統治ノ向上ニ寄與セントスルモノデアリマス、朝鮮同胞ニ對シマシテハ、旣ニ昭和十三年

以來特別志願兵トナルノ途ヲ拓カレテアルノデアリマスルガ、是ガ實績ニ徵シマシテモ、徵兵制施行ノ成果期シテ待ツベキモノガアルト確信致シテ居リマス、尙ホ朝鮮ニ徵兵制ヲ施行セラルルニ伴ヒマシテ、從來內地人ハ兵役ニ服スルノ義務ナキニ至ツタ後デナケレバ、朝鮮人ノ家ニ入ルコトガ出來ナカツタノデアリマスルガ、今後ハ內地人及ビ朝鮮人相互間ニハ、斯クノ如キ制限ヲ必要ト致サナクナリマシタノデ、之ニ關シマスル共通法中改正ヲ致シタイト存ズルノデアリマス、本法律案提出ノ理由ハ概要以上ノ通デアリマス

次ニ只今議題ト相成リマシタル明治三十八年法律第三十八號、即チ俘虜處罰ニ關スル件ノ改正法律案提出ノ理由ヲ御說明申上ゲマス、現行俘虜處罰ニ關スル法律ハ、日露戰役中明治三十八年二月、當時ノ露國俘虜ヲ對象ト致シマシテ、是ガ取締上ノ必要ヨリ制定セラレタノデアリマスガ、現行刑法制定前ノ舊刑罰體系ニ係リ、其ノ罰目、刑名、刑期等、規定ノ全般ニ於キマシテ、整備ヲ要スルモノガアリ、他面大東亞戰爭開始以來、帝國ガ獲得セル俘虜ハ約三十万ノ多キヲ算シテ居ルノデアリマス、而モ其ノ民族、國籍、素質等ニ各〻異ナルモノガアリマスル上ニ、是ガ取締ニ當ル人員ハ、必要ノ最小限ト致シテ居ル關係上、俘虜ノ管理取締ハ從前ニ比シマスト、著シク複雜煩多トナツテ居ルノデアリマス、此ノ間ニ處シマシテ、俘虜ヲ安全且ツ靜謐ニ收容スル如ク取締ヲナスニ付キマシテハ、苟且ニモ不從順ノ行爲ナカラシムル如ク嚴戒スルノ必要ガアルノデアリマス、是ニ於キマシテ現行法ニ付キ所要ノ整備ヲナシテ、現況ニ即スルモノタラシメ、以テ俘虜ノ管理取締ニ遺憾ナキヲ期セントスルモノデアリマス、而シテ本案ノ內容ハ、第一ハ現行法ノ俘虜監督者等ニ對スル暴行、又ハ反抗ノ罪、多衆共謀逃走ノ罪及ビ宣誓違背ノ罪ニ關スル規定等ヲ整理致シマシタルコト、第二ハ新タニ俘虜ノ多衆聚合、暴行脅迫、俘虜監督者等ニ對シマスル殺傷、脅迫及ビ侮辱、並ニ不從順ノ行爲ヲ目的トスル結黨ノ各所爲ヲ罰スル規定ヲ設ケタルコトノ、二點ニ歸スルノデアリマス、以上ガ本法律案提出ノ理由及ビ內容ノ要旨デアリマス、何卒以上各案ニ付キマシテ御審議ノ上、速カニ御協贊アランコトヲ希望致シマス、終リ（拍手）

○副議長（內ケ崎作三郎君）　嶋田海軍大臣

（國務大臣嶋田繁太郎君登壇）

○國務大臣（嶋田繁太郎君）　只今議題トナリマシタ陸軍軍法會議法及海軍軍法會議法中改正法律案提出ノ理由ヲ御說明致シマス、政府ニ於キマシテハ、夙ニ各廳勤務職員ノ優遇ニ付キマシテハ考究中デアリマスルガ、其ノ中判任官ニ付キマシテモ重要ノ職務ニ當リ、事務練達優等ナル者ハ、特ニ之ヲ奏任官トナシ得ルコトニ致シタイ考ヘヲ持ツテ居リマス、然ルニ軍法會議錄事ガ判任官タルコトハ、陸軍軍法會議法及海軍軍法會議法ニ、ソレ〳〵規定セラレテ居リマス關係上、今回右法律ノ關係條項ヲ改正致シマシテ、錄事ニ對シマシテモ、一般官吏優遇ノ趣旨ニ均霑セシメタイト考ヘル次第デアリマス、以上ガ本法律案ヲ提出スル所以デアリマス、何卒御審議ノ上、速カニ御協贊アランコトヲ希望致シマス（拍手）

○副議長（內ケ崎作三郎君）　各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選擧ニ付テ御諮リ致シマス

○森下國雄君　日程第一乃至第四ノ四案ヲ一括シテ、議長指名十八名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長（內ケ崎作三郎君）　森下君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼ブ者アリ）

○副議長（內ケ崎作三郎君）　御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○森下國雄君　此ノ際暫時休憩セラレンコトヲ望ミマス

○副議長（內ケ崎作三郎君）　森下君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼ブ者アリ）

○副議長（內ケ崎作三郎君）　御異議ナシト認メマス、仍テ暫時休憩致シマス

午後一時十七分休憩

午後二時四十二分開議

○議長（岡田忠彥君）　休憩前ニ引續キ會議ヲ開キマス

○森下國雄君　議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此ノ際、政府提出、臨時利得稅法中改正法律案、臨時租稅措置法中改正法律案、酒稅法中改正法律案、酒造組合法中改正法律案、清涼飲料稅法中改正法律案、取引所稅法中改正法律案、砂糖消費稅法中改正法律案、物品稅法中改正法律案、遊興飲食稅法中改正法律案、入場稅法中改正法律案、特別行爲稅法案、及ビ輸出スル物品ニ對スル內國稅免除又ハ交付金交付ノ停止等ニ關スル法律案ノ十二案ヲ一括議題トナシ、委員長ノ報告ヲ求メ、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長（岡田忠彥君）　森下君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼ブ者アリ）

○議長（岡田忠彥君）　御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、臨時利得稅法中改正法律案、臨時租稅措置法中改正法律案、酒稅法中改正法律案、酒造組合法中改正法律案、清涼飲料稅法中改正法律案、取引所稅法中改正法律案、砂糖消費稅法中改正法律案、物品稅法中改正法律案、遊興飲食稅法中改正法律案、入場稅法中改正法律案、特別行爲稅法案、輸出スル物品ニ對スル內國稅免除又ハ交付金交付ノ停止等ニ關スル法律案、右十二案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長松村光三君

臨時利得稅法中改正法律案（政府提出）
第一讀會ノ續（委員長報告）

臨時租稅措置法中改正法律案（政府提出）
第一讀會ノ續（委員長報告）

酒税法中改正法律案(政府提出)
　第一讀會ノ續(委員長報告)
酒造組合法中改正法律案(政府提出)
　第一讀會ノ續(委員長報告)
清涼飲料税法中改正法律案(政府提出)
　第一讀會ノ續(委員長報告)
取引所税法中改正法律案(政府提出)
　第一讀會ノ續(委員長報告)
砂糖消費税法中改正法律案(政府提出)
　第一讀會ノ續(委員長報告)
物品税法中改正法律案(政府提出)
　第一讀會ノ續(委員長報告)
遊興飲食税法中改正法律案(政府提出)
　第一讀會ノ續(委員長報告)
入場税法中改正法律案(政府提出)
　第一讀會ノ續(委員長報告)
特別行爲税法案(政府提出)
　第一讀會ノ續(委員長報告)
輸出スル物品ニ對スル內國税免除又ハ交付金交付ノ停止等ニ關スル法律案(政府提出)　第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一臨時利得税法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十八年二月十二日
委員長　松村光三
衆議院議長岡田忠彥殿

報告書

一臨時租税措置法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十八年二月十二日
委員長　松村光三
衆議院議長岡田忠彥殿

報告書

一酒税法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十八年二月十二日
委員長　松村光三
衆議院議長岡田忠彥殿

報告書

一酒造組合法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十八年二月十二日
委員長　松村光三
衆議院議長岡田忠彥殿

報告書

一清涼飲料税法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十八年二月十二日
委員長　松村光三
衆議院議長岡田忠彥殿

報告書

一取引所税法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十八年二月十二日
委員長　松村光三
衆議院議長岡田忠彥殿

報告書

一砂糖消費税法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十八年二月十二日
委員長　松村光三
衆議院議長岡田忠彥殿

報告書

一物品税法中改正法律案(政府提提)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十八年二月十二日
委員長　松村光三
衆議院議長岡田忠彥殿

報告書

一遊興飲食税法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十八年二月十二日
委員長　松村光三
衆議院議長岡田忠彥殿

報告書

一入場税法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十八年二月十二日
委員長　松村光三
衆議院議長岡田忠彥殿

報告書

一特別行爲税法案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十八年二月十二日
委員長　松村光三
衆議院議長岡田忠彥殿

報告書

一輸出スル物品ニ對スル內國税免除又ハ交付金交付ノ停止等ニ關スル法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十八年二月十二日
委員長　松村光三
衆議院議長岡田忠彥殿

(松村光三君登壇)

○松村光三君　只今議題トナリマシタ增税等ニ關スル十二件ノ法律案ニ付キマシテ、委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、是等法案ノ骨子ハ、國家ノ經濟總力ヲ戰力增强ニ集中スル爲メ、此ノ際極力消費節約、購買力吸收ヲ圖リ、併セテ臨時軍事費ノ一部ニ充ツル爲メ、專ラ間接税中心ノ增

收ヲ圖ルト共ニ、新タニ特別行爲税ヲ興シ、尙ホ産業ノ再編成、其ノ他諸政策ノ遂行ニ必要ナル租税上ノ臨時措置ヲ講ゼントスルモノデアリマス、而シテ是等增税案ノ內容ハ、酒類及ビ清涼飮料税ニ於テ十割、砂糖消費税ハ家庭用ニ輕ク、業務用ニ特ニ重ク、總額ニ於テ七割、物品税ハ八割、遊興飮食税ハ七割、入場税ハ二割、是等ヲソレゾレ增徵ヲ致シマス、其ノ外臨時利得税ノ增收、臨時租税措置法ノ減免等ヲ差引キ、本年度ニ於テハ十億七百餘万圓、平年度ニ於テ十一億四千五百餘万圓ノ增收トナリ、之ニ煙草專賣益金ヲ加ヘテ、本年度ニ於テ合計約十四億五千餘万圓ノ增收ヲ計上セントスルモノデアリマス、今質疑應答ノ主ナルモノヲ五ツニ大別致シマス

第一ハ增税ノ基準及ビ目標ニ關スルモノデアリマス、卽チ戰時財政ノ要諦ハ、須ク財政經濟基本要綱ニ示スガ如ク、其ノ財源ヲ適當ニ按配シ、確定租税收入ヲ增加シ、公債發行ヲ可及的ニ制約スルニアルガ、斯カル觀點カラスレバ、今回ノ增税十四億五千万圓ハ寧ロ聊カ少キニ失スル、卽チ戰時下ノ社會正義、戰爭景氣ノ變遷等ヨリ之ヲ見ルモ、又消費節約、購買力吸收ノ見地カラ之ヲ見ルモ、進ンデ直截簡明ナル直接税ヲ其ノ源泉ニ遡ツテ增徵スベキデハナイカト云フ質疑ニ對シマシテ、政府ヨリハ、公債ト租税トノ割合ハ、必ズシモ理論ニ囚ハルル必要ハナイ、國民經濟ノ維持發展ヲ阻碍セザル範圍ニ於テ、國民ノ負擔力、國民經濟ノ實情等ヲ能ク勘案シ、殊ニ豐富ナル大東亞總力ノ綜合調和ヲモ考ヘテ、必勝ノ信念ヲ以テ、玆ニ決戰財政ヲ樹テタモノデアル、蓋シ豫算編成ノ當時ハ、尙ホ臨軍費ノ要求ガ明カデナイ、隨テ歲出全體ヲ見合ツテ、此ノ增税ノ基準比率ヲ算出シタモノデハナク、正直ニ申上グルナラバ、專ラ間接税ニ於テ、現在爲シ得ル所ノ最大限度ノ增税ヲ盛ツタモノデアル、又直接税ニ付テハ、昨年既ニ大幅ノ增徵ヲ斷行シテ、直接税ノ比率モ相當ニ重クナツテ居ル、且ツ多數ノ新規納税者ノ負擔モ增加シテ居ル、殊ニ決戰體制下ニ於テハ、一般國民生活ノ樣相等ヲモ深ク考慮スル時ニ、此ノ際トシテハ直接税ヲ增徵セズニ、專ラ間接税中心ノ增徵ヲ企圖シタモノデアル、要スルニ奢侈的消費ニ特ニ重ク、比較的所得ノ大イナル者ニモ重ク之ヲ課シ、極力直接税的間接税ノ性格ヲ具現セシメント努メタモノデアルト答辯デアリマス

第二ハ租税ノ根本理念ニ關スル問題デアリマス、卽チ租税ノ基調ハ、應能原則擔税力主義ト共ニ、消費ノ規正、購買力吸收主義ニ推移シタガ、百尺竿頭一歩ヲ進メテ、更ニ生產增强第一主義ニ重點ヲ置イテ、租税政策ヲ確立シナケレバナラヌデハナイカ、大藏大臣ノ常ニ所謂租税政策ト經濟政策トノ調和トハ、果シテ如何ナルコトヲ意味スルカト云フ質疑ニ對シマシテ、政府ヨリハ應能原則ハ戰時下ニ於テモ、固ヨリ相當ニ重要視スベキ問題デハアルケレドモ、同時ニ必ズシモ之ニ拘泥セズシテ、深ク租税政策ト經濟政策トノ調和ヲ考ヘ、玆ニ國家經濟ノ要求ガ或ル程度マデハ租税政策ヲ制壓スルコトモアリ得ル、卽チ國家總力集中ノ結果、各種ノ政策ハ何レモソレゾレ尖銳化シテ居ル、又自ラオ互ニ競リ合フ場面モアル、又租税自體モ幾度カ重税ノ結果、既ニ相當ノ問題ヲ惹起シテ居ル、是ニ於テカ臨時租税措置法ヲ新タニ改正シテ、產業ノ再編成、其ノ外時局ノ要請ニ基ク犧牲者ニ對シテハ、十分ナル斟酌ヲ加ヘル、又事業ノ統制上不動產、鑛業權者ノ讓渡利得、或ハ山林ノ增伐者等ニ對シテノ所得税計算ニ、特例ヲ設クルガ如キ、現下緊要ナル諸政策トノ調和ヲモ考ヘタノデアル、更ニ進ンデ重要產業ノ勞務者農民等ニ對シ、若干數量ノ酒ト煙草ヲ限リ、增税以前ノ低廉ナル價格ヲ以テ特配セントスルガ如キモ、聊カナガラ生產第一主義ノ要請ニ卽應セントスル一策デアルト答辯サレマシタ

第三ハ、將來ノ租税政策ニ關スルモノデアリマス、卽チ來年度ニ於テ直接税ノ增徵ヲ斷行スカドウカ、又今後尙ホ間接税ヲモ增徵スル餘地アリヤト云フ質疑ニ對シマシテ、政府ヨリハ今後ニ於ケル財政需要ノ增加ト、國民經濟ノ推移ヲ考ヘル時、直接税其ノ他ニ於テ相當ノ增税ヲ、今カラ豫メ覺悟スルノ必要ガアルガ、サリトテ來年度ニ於テ、之ヲ實行スルヤ否ヤト云フコトハ、今直チニ之ヲ言明スルコトハ避ケタイ、又間接税ノ增徵ニ其ノ餘地アルヤ否ヤト云フコトモ、今後各種ノ情勢ニ依ルノデアルカラシテ、具體的ニ玆ニ之ヲ言明スルコトハ許サレナイ、次ニ新税デアル特別行爲税ナルモノハ、物品ノ流通又ハ他人ノ勞務ヲ煩ハス各段階每ニ税金ヲ課ケルモノデアルカラシテ、是ハ一種ノ一般取引税、卽チ賣上税デアル、我ガ國獨特ナル新タナル租税制度デアル、併シナガラ一方ニ於テ現行ノ我ガ國ノ物品税ハ、其ノ物件ノ範圍ニ於テモ相當ニ廣ク、其ノ税率ニ於テモ、既ニ最高ノ限度ニ達シタト見ナケレバナラナイ、稍〻行詰リノ感ガアル、隨テ將來ハ此ノ特別行爲税ト云フモノノ課税ノ範圍ヲ擴ゲルカ、又物品税ト特別行爲税ノ兩者ヲ解體統合シテ、之ヲ一本ノ一般賣上税ニ編成替スル必要ガアルト思フガ如何ト云フ質疑ニ對シマシテ差當リ特別行爲税ノ範圍ヲ著シク擴大スルコトモ考ヘモノデアル、サリトテ賣上税ノ負擔關係ヤ、一般物價ニ及ボス重大ナル影響等ヲ考フル時ニ、特別行爲税ヲ如何ニ取扱フカト云フコト、又賣上税、取引税ノ問題ニ付テハ、更ニ一層愼重ナル研究ニ俟チタイト云フ答辯デアリマス

第四ハ、税制ノ簡易化ト徵税事務刷新ノ問題デアリマス、卽チ最近我ガ國ノ税制ハ複雜化シテ居ル、負擔モ相當ニ重クナツテ居ル、延イテ査定ノ異議申立、再審者ノ數モ殖エテ居ル、又納税反則者ノ數モ相當ニ增加シテ居ルニモ拘ラズ、現在ノ税務官吏ハ足ラズ、待遇ハ不良デアリ、素質ハ低下シ、訓練ハ不備ナル爲ニ、却テ納税成績ガ甚ダ不良ニナリ、之ヲ拍車ヲ掛ケル傾キモアル、是ガ爲ニ國民ノ精神上、心理上ニ及ボス惡影響モ、決シテ少シトハシナイ、其ノ對策ヲ如何ニスルカ、之ニ對シテ政府ハ、納税ト徵税トノ對立觀念ヲ完全ニ拂拭シテ、兩

者ガ眞ニ一體化スル所ノ納稅報國精神ヲ涵養シナケレバナラナイ、國民ハ決戰下ニ於テ時局ノ認識ヲ新タニシ、消費ヲ極度ニ規正シテ、茲ニ國民ノ任務ヲ完了シナケレバナラヌト同時ニ、又國民ノ納稅ヲ容易ナラシメ、併セテ國民貯蓄ノ增强ニ資スル爲ニ、新タニ納稅施設法ト云フモノヲ制定シタ、他方ニ稅務講習所ノ設置、稅務官吏ノ增員、其ノ待遇ノ一部改善、納稅者團體交付金ノ增加等ヲ企圖シタ、尙ホ將來徵稅事務ノ根本的刷新ニ付テモ、十分ナル考慮ヲ拂ヒタイト云フ答辯デアリマス

第五ハ、各增稅ノ品目ニ關スル質疑デアリマシテ、先ヅ酒稅ニ付キマシテハ、其ノ配給、殊ニ重要產業勞務者、農村等ニ對スル特配ノ方法ニ付キマシテハ、合理適切ニ苟クモ羊頭狗肉ニ陷ルガ如キコトナカランコトヲ要望セラレマシタ、更ニ進ンデ酒ノ專賣制度如何、自家用濁酒ノ公認如何等ガ高調サレマシタ、次イデ遊興飮食稅、物品稅ニ付キマシテハ、益〻增加シツツアル反則者ヲ、如何ニ取締ルカ、或ハ不要不急、贅澤品ノ製造禁止ヲ斷行スベキデハナイカ、又臨時租稅措置法上ノ小賣業者ノ整備統合ニ付テ、各般ノ事項ニ亙リ頗ル白熱シタル論戰ガ展開セラレマシタガ、是等詳細ノコトハ速記錄ニ讓リマシテ、茲ニ之ヲ省略致シマス、斯クシテ討論ニ入リ、小泉君カラ贊成ノ意見ガアリ、續イテ採決ニ入リ、各案トモ原案ノ通リ可決確定致シマシタ、右御報告申上ゲマス(拍手)

○**議長(岡田忠彥君)**　十二案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○**議長(岡田忠彥君)**　御異議ナシト認メマス、仍テ十二案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○**森下國雄君**　直チニ十二案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通リ可決セラレンコトヲ望ミマス

○**議長(岡田忠彥君)**　森下君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○**議長(岡田忠彥君)**　御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ十二案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

臨時利得稅法中改正法律案　第二讀會(確定議)

臨時租稅措置法中改正法律案　第二讀會(確定議)

酒稅法中改正法律案　第二讀會(確定議)

酒造組合法中改正法律案　第二讀會(確定議)

清涼飮料稅法中改正法律案　第二讀會(確定議)

取引所稅法中改正法律案　第二讀會(確定議)

砂糖消費稅法中改正法律案　第二讀會(確定議)

物品稅法中改正法律案　第二讀會(確定議)

遊興飮食稅法中改正法律案　第二讀會(確定議)

入場稅法中改正法律案　第二讀會(確定議)

特別行爲稅法案　第二讀會(確定議)

輸出スル物品ニ對スル內國稅免除又ハ交付金交付ノ停止等ニ關スル法律案　第二讀會(確定議)

○**議長(岡田忠彥君)**　別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、十二案トモ委員長報告通リ可決確定致シマシタ(拍手)日程第五乃至第七ハ、便宜上一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○**議長(岡田忠彥君)**　御異議ナシト認メマス、仍テ日程第五、商工經濟會法案、日程第六、商工組合法案、日程第七、商工組合中央金庫法中改正法律案、右三案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス――岸商工大臣

第五　商工經濟會法案(政府提出、貴族院送付)　第一讀會

第六　商工組合法案(政府提出、貴族院送付)　第一讀會

第七　商工組合中央金庫法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)　第一讀會

商工經濟會法案

商工經濟會法

第一條　商工經濟會ハ國民經濟ノ總力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル爲國策ニ協力シ產業經濟ノ圓滑ナル連絡ヲ圖ルト共ニ其ノ改善向上ニ努ムルコトヲ目的トス

本法ニ於テ產業經濟トハ第五條第一號ニ揭グル事業ニ關スル產業經濟ヲ謂フ

第二條　商工經濟會ハ法人トス

第三條　商工經濟會ノ地區ハ道府縣ノ區域ニ依ル

第四條　商工經濟會ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ニ揭グル事業ヲ行フ

一　當該地區內ニ於ケル產業經濟ニ關スル統制ニ對スル協力

二　當該地區內ニ於ケル產業經濟ノ運營又ハ整備ニ關スル連絡

三　當該地區內ニ於ケル產業經濟ノ改善向上ニ關スル施設

四　產業經濟ニ關スル調査及研究

五　前各號ニ揭グルモノノ外商工經濟會ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

第五條　商工經濟會ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ左ニ揭グル者ニシテ地方長官ノ指定スルモノトス

一　當該地區內ニ營業所、工場又ハ事業場ヲ有シ商業、交易業、工業、鑛業、金融業、電氣事業、交通運輸業又ハ土木建築業ヲ營ム者

二　前號ニ揭グル事業ヲ營ム者ヲ以テ組織スル團體ニシテ當該地區內ニ事務所ヲ有スルモノ

三　前號ニ揭グル團體ノ外當該地區內ニ事務所ヲ有スル產業經濟ニ關スル團體

第六條　主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ會員タル資格ヲ有スル者ニ對シ商工經濟會ノ設立ヲ命ズベシ
前項ノ規定ニ依ル設立ノ命令アリタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ創立總會ヲ開キ定款其ノ他商工經濟會ノ設立ニ必要ナル事項ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ
第一項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者主務大臣ノ指定スル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ主務大臣ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得
第七條　商工經濟會ノ定款ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ
一　名稱
二　地區
三　事務所ノ所在地
四　會員ニ關スル規定
五　事業及其ノ執行ニ關スル規定
六　役員ニ關スル規定
七　會議ニ關スル規定
八　會計ニ關スル規定
九　支部ニ關スル規定
第八條　商工經濟會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス
第九條　商工經濟會成立シタルトキハ其ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ總テ其ノ商工經濟會ノ會員トス
第十條　商工經濟會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ
第十一條　商工經濟會ハ其ノ名稱中ニ商工經濟會ナル文字ヲ用フベシ
商工經濟會又ハ商工經濟會ヲ以テ組織スル團體ニ非ザル者ハ其ノ名稱ニ商工經濟會ナル文字ヲ用フルコトヲ得ズ
第十二條　商工經濟會ニハ左ノ役員ヲ置クベシ
會頭　一人
理事　若干人
監事　若干人
評議員　若干人
商工經濟會ニハ前項ノ役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ副會頭二人以內又ハ理事長一人ヲ置クコトヲ得
第十三條　會頭ハ商工經濟會ヲ代表シ會務ヲ總理ス
副會頭ハ會頭ヲ輔佐シ豫メ會頭ノ定ムル順位ニ依リ會頭事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ會頭缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ
理事長ハ會頭及副會頭ヲ輔佐シ會務ヲ掌理シ會頭及副會頭共ニ事故アルトキハ會頭ノ職務ヲ代理シ會頭及副會頭共ニ缺員ノトキハ會頭ノ職務ヲ行フ
理事ハ會頭、副會頭及理事長ヲ輔佐シ會務ヲ分掌シ豫メ會頭ノ定ムル順位ニ依リ會頭、副會頭及理事長共ニ事故アルトキハ會頭ノ職務ヲ代理シ會頭、副會頭及理事長共ニ缺員ノトキハ會頭ノ職務ヲ行フ
監事ハ商工經濟會ノ業務及財産ノ狀況ヲ監査ス
評議員ハ會頭ノ諮問ニ對シ答申シ又ハ會頭ニ對シ意見ヲ具申ス
第十四條　會頭ハ會頭銓衡委員ノ推薦シタル者ノ中ヨリ地方長官ノ意見ヲ徵シ主務大臣之ヲ命ズ
前項ノ會頭銓衡委員ハ當該商工經濟會ノ地區內ニ於ケル產業經濟ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ地方長官之ヲ命ズ
副會頭、理事長及理事ハ當該商工經濟會ノ地區內ニ於ケル產業經濟ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ地方長官ノ承認ヲ受ケ會頭之ヲ命ズ
監事ハ命令ノ定ムル所ニ依リ評議員之ヲ選任ス
評議員ハ評議員銓衡委員ノ推薦シタル者ノ中ヨリ會頭之ヲ命ズ
前項ノ評議員銓衡委員ハ會員及會員タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ地方長官ノ承認ヲ受ケ會頭之ヲ命ズ
第十五條　商工經濟會ノ役員ノ任期ハ左ノ通トス
會頭　三年
副會頭　三年
理事長　三年
理事　三年
監事　二年
評議員　二年
會頭必要アリト認ムルトキハ任期中ト雖モ地方長官ノ承認ヲ受ケ副會頭、理事長又ハ理事ヲ解任スルコトヲ得
第十六條　商工經濟會ニ總會ヲ置ク
通常總會ハ每年一回會頭之ヲ招集ス
會頭必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ臨時總會ヲ招集スルコトヲ得
第十七條　左ニ揭グル事項ハ總會ノ議決ヲ經ベシ
一　定款ノ變更
二　收支豫算
三　第二十四條ノ規定ニ依ル賦課金ノ賦課徵收方法
四　其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項
第十八條　會員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ第五條第二號ノ會員ニ付テハ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付十個ヲ超エザル範圍內ニ於テ二個以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得
第十九條　總會ノ議長ハ會頭ヲ以テ之ニ充ツ
第二十條　總會ハ會員三分ノ一以上出席スルニ非ザレバ之ヲ開クコトヲ得ズ
總會ノ議決ハ出席者ノ議決權ノ過半數ニ依リ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス
定款ノ變更ノ議決ハ會員ノ半數以上出席シ出席者ノ議決權ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ爲ス
會員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス
前項ノ代理人ノ資格其ノ他代理人ニ關スル事項ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條　商工經濟會ハ定款ノ定ムル所ニ依リ總會ニ代ルベキ總代會ヲ設クルコトヲ得
前五條ノ規定ハ前項ノ總代會ニ之ヲ準用ス
第二十二條　商工經濟會ハ産業經濟ニ關スル事項ニ付行政官廳ニ建議スルコトヲ得
商工經濟會ハ行政官廳ノ諮問ニ對シ答申スベシ
第二十三條　商工經濟會ハ其ノ會員及會員タル團體ヲ組織スル者ニ對シ産業經濟ニ關スル事項ノ調査ヲ爲ス爲必要ナル資料ノ提出ヲ求ムルコトヲ得
第二十四條　商工經濟會ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ニ對シ經費ヲ賦課スルコトヲ得
第二十五條　商工經濟會ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款ニ違反シタル會員ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得
第二十六條　第二十四條ノ規定ニ依ル賦課金又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ商工經濟會ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ商工經濟會ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スベシ
前項中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス
第一項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ギ其ノ時效ニ付テハ市町村稅ノ例ニ依ル
第二十七條　商工經濟會ハ定款ノ定ムル所ニ依リ使用料及手數料ヲ徵收スルコトヲ得
前項ノ使用料及手數料ノ徵收ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第二十八條　商工經濟會ハ其ノ地區内ノ必要ナル地ニ支部ヲ置キ其ノ事業ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得
第二十九條　商工經濟會ノ支部ニ支部長ヲ置キ必要ニ應ジ參與ヲ置ク
支部長ハ支部ノ事務ヲ掌理ス
參與ハ支部ノ事務ニ參與ス
支部長ハ商工經濟會ノ監事以外ノ役員中ヨリ地方長官ノ承認ヲ受ケ會頭之ヲ命ズ
參與ハ會頭ノ承認ヲ受ケ支部長之ヲ命ズ
第三十條　定款ノ變更、收支豫算及第二十四條ノ規定ニ依ル賦課金ノ賦課徵收方法ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ
第三十一條　行政官廳ハ商工經濟會ニ對シ産業經濟ニ關スル事項ノ調査ヲ命ズルコトヲ得
第三十二條　行政官廳當該地區内ニ於ケル産業經濟ノ統制運營上必要アリト認ムルトキハ商工經濟會ニ對シ必要ナル事業ノ施行ヲ命ジ又ハ定款ノ變更其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得
第三十三條　行政官廳ハ商工經濟會ニ對シ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得
行政官廳必要アリト認ムルトキハ監事ヲシテ監査ノ結果ヲ報告セシムルコトヲ得
第三十四條　行政官廳必要アリト認ムルトキハ商工經濟會ヨリ其ノ事業ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ商工經濟會ノ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査スルコトヲ得
第三十五條　總會若ハ總代會ノ議決又ハ役員ノ行爲ガ法令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ行政官廳ハ總會若ハ總代會ノ議決ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得
第三十六條　商工經濟會ハ主務大臣ノ命令ニ因リテ解散ス
第三十七條　商工經濟會ノ解散及淸算ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第三十八條　本法ニ基キテ發スル勅令ニ違反シ登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキハ會頭、副會頭、理事長又ハ理事ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス
第三十九條　第十一條第二項ノ規定ニ違反シ名稱中ニ商工經濟會ナル文字ヲ用ヒタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス
第四十條　樺太ニ於テ本法ヲ適用スルニ付必要ナル事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

附　則

第四十一條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第四十二條　商工會議所法ハ之ヲ廢止ス
第四十三條　商工會議所法ニ依リ設立セラレ本法施行ノ際現ニ存スル商工會議所ハ本法施行後ト雖モ仍存續スルモノトス
前項ノ商工會議所ニハ商工會議所法ノ規定ヲ適用ス
第四十四條　前條第一項ノ商工會議所ハ其ノ地區ノ屬スル道府縣ニ於テ商工經濟會成立シタル時解散スルモノトシ其ノ權利義務ハ當該商工經濟會之ヲ承繼ス此ノ場合ニ於テハ商工會議所法中淸算ニ關スル規定ハ之ヲ適用セズ
第四十五條　商工會議所法ニ依ル日本商工會議所ハ本法施行ノ日ニ於テ解散ス此ノ場合ニ於ケル淸算ニ付テハ商工會議所法中淸算ニ關スル規定ヲ適用ス
第四十六條　商工經濟會ガ第四十四條ノ規定ニ依リ承繼シタル不動産ニ關スル權利ノ取得ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登錄稅ノ額ハ不動産ノ價格ノ千分ノ三トス但シ登錄稅法ニ依リ算出シタル登錄稅ノ額ガ本條ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ヨリ少キトキハ其ノ額ニ依ル
第四十七條　本法施行ノ際現ニ商工經濟會ノ名稱ヲ使用スル者ハ本法施行後六月以內ニ其ノ名稱ヲ變更スルコトヲ要ス
第三十九條ノ規定ハ前項ノ期間内之ヲ前項ニ揭グル者ニ適用セズ
第四十八條　商工經濟會成立ノ際商工會議所法ニ依ル異議ノ申立ニシテ現ニ申立中ノモノ又ハ申立期間滿了セザルモ

ノ、同法ニ依ル賦課金又ハ過怠金ニシテ現ニ滯納セルモノ等ノ處理ニ關シ必要アル場合ニ於テハ勅令ヲ以テ必要ナル定ヲ爲スコトヲ得

商工組合法案

商工組合法

第一章　總則

第一條　商工組合ハ統制組合及施設組合ノ二種トス

第二條　商工組合ハ法人トス

第三條　統制組合又ハ施設組合ハ其ノ名稱中ニ統制組合又ハ施設組合ナル文字ヲ用フベシ

統制組合又ハ施設組合ニ非ザル者ハ其ノ名稱中ニ統制組合又ハ施設組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第四條　商工組合ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第五條　本法ニ規定スルモノノ外商工組合及商工組合中央會ノ設立、管理、組合員又ハ會員ノ權利義務及加入脫退、解散、合併、清算其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　樺太ニ於テ本法ヲ適用スルニ付必要ナル事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第二章　統制組合

第七條　統制組合ハ國民經濟ノ總力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル爲商業、工業又ハ鑛業ノ統制ヲ圖リ又ハ之ガ爲ニスル經營ヲ行ヒ且當該事業ニ關スル國策ノ遂行ニ協力スルコトヲ目的トス

第八條　統制組合ハ一定地區ニ於テ同種又ハ二種以上ノ事業別ニ之ヲ設立ス

第九條　統制組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ニ掲グル事業ヲ行フ

一　組合員及組合員タル團體ヲ組織スル者ノ當該事業ニ關スル統制指導

二　組合員及組合員タル團體ヲ組織スル者ノ取扱品ノ仕入、販賣、保管其ノ他組合員及組合員タル團體ヲ組織スル者ノ當該事業ニ關スル統制ノ爲ニスル施設

三　當該事業ニ關スル調査及研究

四　組合員及組合員タル團體ヲ組織スル者ノ當該事業ニ關スル檢査

五　前各號ニ掲グルモノノ外統制組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

統制組合ハ前項ノ事業ノ外當該事業ノ統制ノ爲必要アルトキハ組合員ニ對スル事業資金ノ貸付、組合員ノ事業資金ノ寄託ノ引受又ハ組合員ノ爲ニスル其ノ事業上ノ債務ノ保證ヲ併セ行フコトヲ得

第五十五條乃至第五十八條ノ規定ハ保管事業ヲ行フ統制組合ニ之ヲ準用ス但シ施設組合倉庫證券トアルハ統制組合倉庫證券トス

第十條　統制組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ハ左ニ掲グル者ニシテ定款ヲ以テ定ムルモノトス

一　當該地區内ニ於テ當該事業ヲ營ム者

二　當該地區内ニ於テ當該事業ヲ營ム者ヲ以テ組織スル團體

三　第一號ニ掲グル者及前號ニ掲グル團體ヲ以テ組織スル團體又ハ前號ニ掲グル團體ヲ以テ組織スル團體

四　第一號ニ掲グル者ヲ除クノ外當該地區内ニ於テ當該事業ヲ行フ者ニシテ行政官廳ノ指定シ又ハ統制組合(組合設立當時ニ於テハ發起人)ニ於テ行政官廳ノ認可ヲ受ケタルモノ

第十一條　統制組合ヲ設立セントスルトキハ組合員タルベキ者發起人ト爲リ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員タル資格ヲ有スル者ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ理事長及監事ヲ選任シ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第十二條　行政官廳當該事業ノ統制ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ地區及組合員タル資格ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ統制組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ統制組合ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ理事長及監事ヲ選任シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

第一項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者行政官廳ノ指定スル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ行政官廳ハ定款ノ作成、理事長及監事ノ任命其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條　統制組合ノ定款ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一　目的

二　名稱

三　地區

四　事務所ノ所在地

五　組合員タル資格ニ關スル規定

六　組合員ノ權利義務ニ關スル規定

七　事業及其ノ執行ニ關スル規定

八　役員ニ關スル規定

九　會議ニ關スル規定

十　會計ニ關スル規定

第三十五條第一項ノ規定ニ依リ組合員ヲシテ出資ヲ爲サシムル統制組合ノ定款ニハ前項各號ニ掲グル事項ノ外左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一　出資ヲ爲スベキ組合員ノ範圍、出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

二　剩餘金ノ處分及損失補塡ニ關スル規定

三　準備金ノ額及其ノ積立ノ方法

第十四條　統制組合ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

前項ノ場合ニ於テハ統制組合ハ遲滯ナク其ノ成立ノ旨及定款ヲ公示スベシ

第十五條　統制組合成立シタルトキハ其ノ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ其ノ統制組合ノ組合員トス

第十六條　統制組合ニハ左ノ役員ヲ置クベシ
理事長　一人
理事　若干人
監事　若干人
統制組合ニハ前項ノ役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ評議員若干人ヲ置クコトヲ得

第十七條　理事長ハ統制組合ヲ代表シ組合事務ヲ總理ス
理事ハ理事長ヲ輔佐シ組合事務ヲ分掌シ豫メ理事長ノ定ムル順位ニ依リ理事長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ
監事ハ統制組合ノ業務及財産ノ狀況ヲ監査ス
評議員ハ理事長ノ諮問ニ對シ答申シ又ハ理事長ニ對シ意見ヲ具申ス

第十八條　理事長ハ當該事業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選任ス
但シ組合設立當時ノ理事長ハ當該事業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ創立總會ニ於テ之ヲ選任ス
理事及評議員ハ當該事業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ理事長之ヲ命ズ
監事ハ組合員及組合員タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ監事ハ組合員タル資格ヲ有スル者及組合員タル資格ヲ有スル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ創立總會ニ於テ之ヲ選任ス
特別ノ事由アルトキハ監事ハ前項ニ該當セザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得
第一項及前項ノ規定ニ依ル理事長及監事ノ選任竝ニ第二項ノ規定ニ依ル理事ノ任命ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十九條　重要産業團體令ニ依ル統制會(以下統制會ト稱ス)ノ會員タル統制組合ノ理事長ハ前條第一項ノ規定ニ拘ラズ當該事業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ當該統制會ノ會長(當該統制會二以上アルトキハ行政官廳)之ヲ命ズ
前項ノ規定ニ依リ統制會ノ會長ノ爲ス統制組合ノ理事長ノ任命ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ
第一項ノ統制組合ノ理事ノ任命ハ當該統制會二以上アル場合ヲ除クノ外前條第五項ノ規定ニ拘ラズ當該統制會ノ會長ノ承認ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十條　統制組合ノ役員ノ任期ハ左ノ通トス
理事長　三年
理事　三年
監事　二年
評議員　二年
理事長必要アリト認ムルトキハ任期中ト雖モ理事ヲ解任スルコトヲ得
監事ハ任期中ト雖モ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得
第二項ノ規定ニ依ル理事ノ解任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ
統制會ノ會員タル統制組合ニ在リテハ第二項ノ規定ニ依ル理事ノ解任ハ當該統制會二以上アル場合ヲ除クノ外前項ノ規定ニ拘ラズ當該統制會ノ會長ノ承認ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十一條　統制組合ニ總會ヲ置ク但シ定款ノ定ムル所ニ依リ總會ニ代ルベキ總代會ヲ設クルコトヲ得
總會ニ關スル規定ハ前項ノ總代會ニ之ヲ準用ス

第二十二條　本法中別ニ規定スルモノノ外左ニ掲グル事項ハ總會ノ議決ヲ經ベシ
一　定款ノ變更
二　第三十條又ハ第三十一條ノ規定ニ依ル賦課金ノ收支豫算及賦課徵收方法
三　其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項

第二十三條　理事長ハ少クトモ毎年一回通常總會ヲ招集スルコトヲ要ス
理事長必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ臨時總會ヲ招集スルコトヲ得

第二十四條　組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付議決權總數ノ十分ノ一ヲ超エザル範圍內ニ於テ二個以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得

第二十五條　總會ノ決議ハ出席シタル組合員ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス但シ定款ニ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十六條　理事長特別ノ事由アリト認ムル場合ニ於テ行政官廳ノ認可(統制會ノ會員タル統制組合ニ在リテハ當該統制會二以上アル場合ヲ除クノ外當該統制會ノ會長ノ承認)ヲ受ケタルトキハ第二十二條各號ニ掲グル事項ニ付總會ノ決議ニ拘ラズ之ヲ執行スルコトヲ得
總會成立セズ又ハ總會ニ付議シタル事項ヲ議決セザルトキ亦同ジ

第二十七條　理事長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ財産目錄、貸借對照表、事業報告書及剩餘金處分案ヲ通常總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムベシ
組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ掲グル書類ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第二十八條　統制組合ハ當該事業ニ關スル事項ニ付行政官廳ニ建議スルコトヲ得
統制組合ハ行政官廳ノ諮問ニ對シ答申スベシ

第二十九條　統制組合ハ其ノ組合員及組合員タル團體ヲ組織スル者ニ對シ當該事業ニ關スル事項ノ調査ヲ爲ス爲必要ナル資料ノ提出ヲ求ムルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ資料ノ提出ヲ求メラレタル者ハ遲滯ナク之ヲ提出スベシ

第三十條　統制組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ賦課スルコトヲ得

第三十一條　統制組合ハ其ノ事業ヲ行フ

爲特ニ必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ組合員ノ全部又ハ一部ニ對シ前條ノ規定ニ依ル賦課金ノ外特別ノ賦課金ヲ課スルコトヲ得

第三十二條　統制組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款又ハ統制規程ニ違反シタル組合員ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第三十三條　第三十條若ハ第三十一條ノ規定ニ依ル賦課金又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ統制組合ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村税ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ統制組合ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スベシ

前項中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス

第一項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ギ其ノ時效ニ付テハ市町村税ノ例ニ依ル

第三十四條　統制組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ使用料及手數料ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ使用料及手數料ノ徵收ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十五條　第九條第一項第二號ニ揭グル事業ヲ行フ統制組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ノ全部又ハ一部ヲシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ニ規定スル統制組合同項ノ規定ニ依リ其ノ組合員ノ全部又ハ一部ヲシテ出資ヲ爲サシムル場合ニ於テハ當該組合員ハ出資一口以上ヲ有スベシ

第三十六條　前條第一項ノ規定ニ依リ出資ヲ爲サシムル統制組合ハ出資ヲ引受ケタル組合員ヲシテ遲滯ナク第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ

第三十七條　第三十五條第一項ノ規定ニ依リ出資ヲ爲ス組合員ノ責任ハ第三十條及第三十一條ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度トス

第三十八條　統制組合ハ其ノ組合員又ハ組合員タル團體ヲ組織スル者ノ當該事業ニ關スル統制規程ヲ設定スベシ

第三十九條　定款ノ變更竝ニ統制規程ノ設定及變更ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

行政官廳前項ノ規定ニ依リ統制規程ノ設定又ハ變更ノ認可ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スベシ

統制組合第一項ノ規定ニ依リ定款ノ變更ノ認可ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ公示スベシ

第四十條　統制組合ノ組合員又ハ組合員タル團體ヲ組織スル者ハ當該統制組合ノ統制規程ニ依ルベシ

第四十一條　統制組合統制規程ニ基キ製造、加工又ハ販賣ノ數量、販賣價格、加工料金其ノ他ノ命令ノ定ムル事項ニ付決定ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク之ヲ行政官廳ニ屆出ヅベシ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ決定ノ變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得

第四十二條　統制組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款ノ違反ニ係ル取扱品ニシテ違反者ノ所有スルモノニ付抑留其ノ他必要ナル處分ヲ爲シ特ニ必要アルトキハ之ヲ沒收スルコトヲ得

第四十三條　統制組合必要アリト認ムルトキハ統制組合ノ役員又ハ使用人ヲシテ組合員及組合員タル團體ヲ組織スル者ノ業務若ハ財產ノ狀況又ハ帳簿書類、設備其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

統制組合前項ノ規定ニ依リ役員又ハ使用人ヲシテ檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第四十四條　行政官廳必要アリト認ムルトキハ統制組合又ハ其ノ組合員若ハ組合員タル團體ヲ組織スル者ヨリ其ノ事業ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ其ノ事務所、營業所、工場、事業場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類、設備其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第一項ノ場合ニ於テ當該官吏第四十條ノ規定ニ違反シタル者アリト認ムルトキハ被疑者若ハ參考人ヲ尋問シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スベキ物件ヲ搜索シ若ハ之ガ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢、尋問、搜索及差押ニ關シテハ間接國税犯則者處分法ヲ準用ス

第四十五條　行政官廳ハ統制組合ニ對シ當該事業ニ關スル事項ノ調査ヲ命ズルコトヲ得

第四十六條　行政官廳當該事業ノ統制運營上必要アリト認ムルトキハ統制組合ニ對シ必要ナル事業ノ施行、定款若ハ統制規程ノ變更其ノ他必要ナル事項ヲ命ジ又ハ定款若ハ統制規程ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第四十七條　行政官廳ハ統制組合ニ對シ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

行政官廳必要アリト認ムルトキハ監事ヲシテ監査ノ結果ヲ報告セシムルコトヲ得

第四十八條　行政官廳ハ理事長ノ行爲ガ法令又ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ、公益ヲ害シタルトキ其ノ他當該事業ノ統制運營上理事長ヲ不適當ナリト認ムルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得

行政官廳ハ理事、監事又ハ評議員ノ行爲ガ法令若ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害シタルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得

統制會ノ會長ハ當該統制會ノ會員タル統制組合（二以上ノ統制會ニ所屬スル統制組合ヲ除ク）ノ理事長ノ行爲ガ法令又ハ法令ニ基キテ爲ス行政官廳ノ處分ニ違反シタルトキ、公益ヲ害シタルトキ其ノ他當該事業ノ統制運營上理事長ヲ不適當ナリト認ムルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得

前項ノ解任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第四十九條　統制會ノ會員ニ非ザル統制組合又ハ二以上ノ統制會ニ所屬スル統制組合ノ理事長缺ケタル場合ニ於テ行政官廳當該事業ノ統制運營上特ニ必要アリト認ムルトキハ第十八條第一項ノ規定ニ拘ラズ當該事業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ理事長ヲ命ズルコトヲ得

第五十條　統制組合ハ行政官廳ノ命令ニ因ルニ非ザレバ解散又ハ合併ヲ爲スコトヲ得ズ

第五十一條　統制組合ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セズ

第三章　施設組合

第五十二條　施設組合ハ組合員ノ事業ノ改良發達ヲ圖ル爲共同ノ施設ヲ爲スヲ以テ目的トス

第五十三條　施設組合ハ商業、工業又ハ鑛業ニ屬スル事業ヲ營ム者ヲ以テ之ヲ設立ス

第五十四條　施設組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ニ揭グル事業ヲ行フ

一　組合員ノ取扱品ノ仕入、保管、運搬、加工若ハ販賣又ハ組合員ノ爲ノ註文ノ引受

二　組合員ノ事業ニ關スル共同設備ノ設置

三　前二號ニ揭グルモノノ外施設組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

施設組合ハ前項ノ事業ノ外組合員ニ對スル事業資金ノ貸付、組合員ノ爲ニスル其ノ事業上ノ債務ノ保證又ハ組合員ノ貯金ノ受入ヲ併セ行フコトヲ得

第一項第二號ニ揭グル組合ノ共同設備ハ組合員ノ利用ニ支障ナキ場合ニ限リ組合員ニ非ザル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得

第五十五條　保管事業ヲ行フ施設組合ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ組合員ノ寄託物ニ付倉荷證券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ許可ヲ受ケタル施設組合ハ組合員タル寄託者ノ請求ニ因リ寄託物ノ倉荷證券ヲ交付スルコトヲ要ス

商法第六百二十七條第二項及第六百二十八條ノ規定ハ第一項ノ倉荷證券ニ之ヲ準用ス

第五十六條　前條第一項ノ許可ヲ受ケタル施設組合ノ作成スル倉荷證券ニハ施設組合倉庫證券ナル文字ヲ記載スルコトヲ要ス

施設組合ニ非ザル者ノ作成スル預證券及質入證券又ハ倉荷證券ニハ施設組合倉庫證券ナル文字ヲ記載スルコトヲ得ズ

第五十七條　施設組合倉庫證券ノ發行アリタル寄託物ノ保管期間ハ寄託ノ日ヨリ六月以內トス

前項ノ寄託物ノ保管期間ハ六月ヲ限度トシ之ヲ更新スルコトヲ得但シ更新ノ際ニ於ケル證券ノ所持人組合員ニ非ザルトキハ組合員ノ利用ニ支障ナキ場合ニ限ル

第五十八條　商法第六百十六條乃至第六百十九條及第六百二十四條乃至第六百二十六條ノ規定ハ施設組合ガ施設組合倉庫證券ヲ發行シタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十九條　施設組合ヲ設立セントスルトキハ組合員タラントスル者全員設立者ト爲リ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第六十條　施設組合ノ定款ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

一　目的

二　名稱

三　事務所ノ所在地

四　組合員タル資格ニ關スル規定

五　組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定

六　出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

七　剩餘金ノ處分及損失補塡ニ關スル規定

八　準備金ノ額及其ノ積立ノ方法

九　組合員ノ權利義務ニ關スル規定

十　事業及其ノ執行ニ關スル規定

十一　役員ニ關スル規定

十二　會議ニ關スル規定

十三　會計ニ關スル規定

十四　存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第六十一條　施設組合ニハ理事及監事ヲ置クベシ

理事及監事ハ組合員及組合員タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムベシ

理事又ハ監事ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

第六十二條　組合員ハ出資一口以上ヲ有スベシ

第六十三條　組合員タル資格ヲ有スル者ハ組合員ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ得テ施設組合ニ加入スルコトヲ得

第六十四條　組合員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間前ニ豫告ヲ爲シ施設組合ノ承諾ヲ得タル場合ニハ事業年度ノ終ニ於テ脫退スルコトヲ得

組合ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ズ

第六十五條　施設組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一　定款ニ定メタル事由ノ發生

二　總會ノ決議

三　組合ノ合併

四　組合ノ破產

五　第六十六條ノ規定ニ依ル解散ノ命令

總會ノ決議ニ因ル解散ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第六十六條　施設組合ノ事業若ハ財產ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ施設組合ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害スル虞アルトキハ行政官廳ハ總會ノ決議ヲ取消シ、役員ヲ解任シ又ハ組合ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

第六十七條　施設組合ニハ營業稅ヲ課セ

ズ

第六十八條　第十四條第一項、第二十條第一項、第二十一條第一項(但書ヲ除ク)、第二十二條乃至第二十五條、第二十七條、第三十條、第三十二條、第三十四條、第三十六條、第三十七條、第三十九條第一項、第四十四條、第四十六條及第四十七條ノ規定ハ施設組合ニ之ヲ準用ス

第四章　商工組合中央會

第六十九條　商工組合中央會ハ商工組合ノ指導及連絡ヲ圖ル目的ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

商工組合中央會ハ法人トス

第七十條　商工組合中央會ハ其ノ名稱中ニ商工組合中央會ナル文字ヲ用フベシ

第七十一條　商工組合中央會ハ全國ヲ通ジテ一個トシ其ノ設立ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第七十二條　商工組合ハ商工組合中央會ノ會員ト爲ルコトヲ得

前項以外ノ者ト雖モ定款ノ定ムル所ニ依リ商工組合中央會ノ會員ト爲ルコトヲ得

第七十三條　商工組合中央會ノ定款ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一　目的
二　名稱
三　事務所ノ所在地
四　會員ノ加入及脱退ニ關スル規定
五　會員ノ權利義務ニ關スル規定
六　資産ニ關スル規定
七　事業及其ノ執行ニ關スル規定
八　役員ニ關スル規定
九　會議ニ關スル規定
十　存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第七十四條　商工組合中央會ニハ左ノ役員ヲ置クベシ

會長　一人
理事　若干人
監事　若干人

商工組合中央會ニハ前項ノ役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ副會長二人以内ヲ置クコトヲ得

第七十五條　會長及副會長ハ商業、工業又ハ鑛業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選任ス但シ中央會設立當時ノ會長及副會長ハ商業、工業又ハ鑛業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ創立總會ニ於テ之ヲ選任ス

理事及監事ハ會員又ハ會員タル法人ノ役員ノ中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選任ス但シ中央會設立當時ノ理事及監事ハ設立同意者又ハ設立同意者タル法人ノ役員ノ中ヨリ創立總會ニ於テ之ヲ選任ス

第七十六條　第三條第二項、第四條、第十四條第一項、第二十一條、第二十二條乃至第二十五條、第二十七條、第二十八條、第三十條、第三十九條第一項、第四十五條乃至第四十七條、第六十五條及第六十六條ノ規定ハ商工組合中央會ニ之ヲ準用ス

第五章　罰則

第七十七條　第四十條ノ規定ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第七十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第二十九條第二項ノ規定ニ違反シタル者
二　正當ノ理由ナクシテ第四十三條第一項ノ規定ニ依ル檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

第七十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　正當ノ理由ナクシテ第四十四條ノ規定(第六十八條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル當該官吏ノ臨檢檢査、尋問、搜索又ハ差押ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者
二　第四十四條ノ規定(第六十八條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚僞ノ報告ヲ爲シタル者

第八十條　統制組合ノ證票若ハ檢査證ヲ不正ニ併用シタル者、行使ノ目的ヲ以テ證票若ハ檢査證ヲ僞造若ハ變造シタル者又ハ僞造若ハ變造ノ證票若ハ檢査證ヲ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十一條　統制組合ノ役員若ハ使用人又ハ其ノ職ニ在リタル者其ノ業務執行ニ關シ知得シタル法人又ハ人ノ業務上ノ祕密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十二條　統制組合ノ役員、清算人又ハ使用人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第八十三條　前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第八十四條　第八十條ニ掲グル罪ハ刑法第三條ノ例ニ、第八十二條ニ掲グル罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

第八十五條　商工組合又ハ商工組合中央會本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ會長、副會長、理事長、理事又ハ監事ヲ五千圓以下ノ過料ニ處ス

第八十六條　第三條第二項ノ規定(第七十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ違反シタル者又ハ第五十六條第二項ノ規定(第九條第三項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第八十七條　統制組合ノ組合員又ハ組合員タル團體ヲ組織スル者ハ其ノ代表者、代理人、戸主、家族、同居者、雇

人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第七十七條第一項、第七十八條第一號又ハ第七十九條第二號ノ罪ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第八十八條　第七十七條第一項、第七十八條第一號又ハ第七十九條第二號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第八十九條　前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

附　則

第九十條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十一條　重要物產同業組合法、工業組合法及商業組合法ハ之ヲ廢止ス但シ重要物產同業組合法ニ付テハ漁業法其ノ他ノ法律ニ依リ準用セラルル範圍內ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

前項本文ニ揭グル法律ニ依リ設立セラレ本法施行ノ際現ニ存スル同業組合、同業組合聯合會、工業組合、工業組合聯合會、工業小組合、工業組合中央會、商業組合、商業組合聯合會、商業小組合及商業組合中央會ハ本法施行後ト雖モ勅令ヲ以テ指定スル期間ヲ限リ仍存續スルモノトス

前項ニ揭グル組合、聯合會、小組合及中央會ニ付テハ第一項本文ニ揭グル法律ハ同項ノ規定ニ拘ラズ仍其ノ效力ヲ有ス

本法施行前又ハ第二項ノ規定ニ依リ同項ニ揭グル組合、聯合會、小組合又ハ中央會ガ存續スル期間中ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ本法施行後又ハ前項ノ規定ニ依リ效力ヲ有スル第一項本文ニ揭グル法律ガ其ノ效力ヲ失フニ至リタル後ト雖モ仍從前ノ規定ニ依ル

第二項ニ揭グル組合、聯合會、小組合又ハ中央會ニシテ同項ノ勅令ヲ以テ指定スル期間滿了ノ際現ニ存スルモノ（淸算中ノモノヲ除ク）ハ當該期間滿了ノ際解散スルモノトス

前項ノ規定ニ依ル解散及淸算ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十二條　重要產業團體令ニ依ル統制組合ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依ル統制組合ト爲リタルモノトス

前項ノ場合ニ於テ重要產業團體令ニ依ル統制組合ノ權利義務ハ本法ニ依ル統制組合ニ於テ之ヲ承繼ス

前項ニ揭グルモノノ外登記其ノ他重要產業團體令ニ依ル統制組合ガ第一項ノ規定ニ依リ本法ニ依ル統制組合ト爲ルニ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依ル統制組合ノ成立ニ付テハ之ヲ適用セズ

第九十三條　第九十一條第二項ニ揭グル組合、聯合會及小組合ハ定款其ノ他商工組合ト爲ルニ必要ナル事項ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受ケタルトキハ商工組合ト爲ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ同項ニ揭グル組合、聯合會又ハ小組合ノ權利義務ハ商工組合ニ於テ之ヲ承繼ス

第一項ノ規定ニ依リ同項ニ揭グル組合、聯合會又ハ小組合ガ商工組合ト爲リタルトキハ其ノ組合若ハ小組合ノ組合員又ハ其ノ聯合會ノ所屬ノ組合、聯合會若ハ工業者ノ出資ハ當該商工組合ニ對スル出資ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ第一項ニ揭グル組合、聯合會又ハ小組合ニ對スル出資ノ持分ノ上ニ存在スル質權ハ商工組合ニ對スル出資ノ持分ノ上ニ存在ス

第一項ノ場合ニ於テ商工組合ト爲リタル同項ニ揭グル組合ガ保證責任ノ組合ナルトキハ當該商工組合成立ノ際ニ於ケル組合員ハ當該商工組合成立前ニ生ジタル當該組合ノ債務ニ付テハ工業組合法第十八條ノ二又ハ商業組合法第十九條ノ規定ニ依ル責任ヲ免ルルコトナシ

前項ノ責任ハ同項ノ商工組合成立後二年以內ニ請求又ハ請求ノ豫告ヲ爲サザル債權者ニ對シテハ當該商工組合成立後二年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

前五項ニ揭グルモノノ外第一項ニ揭グル組合、聯合會及小組合ガ同項ノ規定ニ依リ商工組合ト爲ルニ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十四條　行政官廳必要アリト認ムルトキハ第九十一條第二項ニ揭グル組合又ハ聯合會ニ對シ統制組合ト爲ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタル組合又ハ聯合會ハ定款其ノ他統制組合ト爲ルニ必要ナル事項ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

前項ニ揭グル組合又ハ聯合會行政官廳ノ指定スル期限迄ニ前項ノ認可ヲ申請セザルトキハ行政官廳ハ定款ノ作成其ノ他當該組合又ハ聯合會ガ統制組合ト爲ルニ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

前條第二項乃至第七項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九十五條　第十四條ノ規定ハ前二條ノ規定ニ依ル商工組合ノ成立ニ之ヲ適用ス

第九十六條　行政官廳當該事業ノ統制上必要アリト認ムルトキハ第九十一條第二項ニ揭グル組合又ハ聯合會ニ對シ同條第三項ノ規定ニ拘ラズ解散ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタル組合又ハ聯合會ハ其ノ命令アリタル時解散スルモノトス此ノ場合ニ於テ必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該組合又ハ聯合會ノ權利義務ハ行政官廳ノ指定スル統制組合之ヲ承繼スルモノト爲スコトヲ得

第九十一條第六項ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依ル解散ノ場合ニ、第九十三條第三項乃至第六項ノ規定ハ前項後段ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九十七條　本法ニ定ムルモノノ外本法ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十八條　商工組合第九十二條乃至第九十六條ノ規定ニ依リ承繼シタル不動產ニ關スル權利ノ取得ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登錄稅ノ額ハ不動產ノ價格ノ千分ノ三トス但シ登錄稅法ニ依リ算出シタル登錄稅ノ額ガ本法ニ依リ算出シタル稅額ヨリ少キトキハ其ノ額ニ依ル

第九十九條　第九十一條第二項ニ揭グル組合、聯合會又ハ小組合ガ第九十三條若ハ第九十四條ノ規定ニ依リ商工組合ト爲リ又ハ第九十六條第二項ノ規定ニ依リ解散シ同項ノ規定ニ依リ權利義務ノ承繼アリタルトキハ所得稅法、法人稅法及臨時利得稅法又ハ特別法人稅法ノ適用ニ關シテハ此等ノ法人ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人又ハ特別ノ法人ト看做シ商工組合ハ之ヲ合併ニ因リテ設立シタル法人又ハ特別ノ法人ト看做ス

第百條　商工組合ガ第九十二條乃至第九十六條ノ規定ニ依リ承繼シタル財產ニ付テハ法人稅法ニ依ル所得、臨時利得稅法ニ依ル利益又ハ特別法人稅法ニ依ル剩餘金ノ計算上之ヲ益金ニ算入セズ

第百一條　本法施行ノ際現ニ第三條第一項又ハ第七十條ニ揭グル名稱ヲ其ノ名稱中ニ用フルモノハ本法施行後六月以內ニ其ノ名稱ヲ變更スルコトヲ要ス

第八十六條ノ規定ハ前項ノ期間內同項ニ揭グルモノニ之ヲ適用セズ

第百二條　商工組合中央金庫法中左ノ通改正ス

第一條第一項中「商工組合中央金庫ハ」ノ下ニ「商工組合、」ヲ加フ

第三條第一項、第三項及第四項中「商業組合聯合會」ノ上ニ「統制組合ヲ組合員トスル統制組合、」ヲ加ヘ同條第二項中「前項ノ聯合會」ヲ「前項ノ組合、聯合會」ニ改ム

第七條第一項中「政府、」ノ下ニ「商工組合、」ヲ加フ

第二十七條第一項但書中「其ノ半數以上ハ」ノ下ニ「商工組合、」ヲ加フ

第二十八條第一項第六號中「商業組合」ノ上ニ「商工組合、」ヲ加フ

第二十九條第一項第三號中「商業組合」ノ上ニ「商工組合、」ヲ加フ

第百三條　特別法人稅法中左ノ通改正ス

第二條中第二號ヲ第二號ノ二トシ同條ニ左ノ一號ヲ加フ

二　統制組合(所屬ノ組合員ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク)

第百四條　登錄稅法中左ノ通改正ス

第十九條第七號中「工業組合」ヲ「商工組合、商工組合中央會、工業組合」ニ、「工業組合法」ヲ「商工組合法、工業組合法」ニ改ム

第百五條　印紙稅法中左ノ通改正ス

第四條第一項第十二號中「工業組合」ヲ「商工組合、工業組合」ニ改ム

第百六條　食糧管理法中左ノ通改正ス

第二十一條第二項中「商業組合法第三條ノ六第二項第三項、第三條ノ七、第三條ノ八第一項第二項本文及第三條ノ九」ヲ「商工組合法第五十五條第二項第三項及第五十六條乃至第五十八條」ニ、同條同項但書中「同法第三條ノ七、第三條ノ八第一項及第三條ノ九中商業組合倉庫證券トアルハ」ヲ「同法第五十六條、第五十七條第一項及第五十八條中施設組合倉庫證券トアルハ」ニ改ム

商工組合中央金庫法中改正法律案

商工組合中央金庫法中左ノ通改正ス

第六條ノ二　商工組合中央金庫ノ資本金ヲ千四百萬圓增加シ之ヲ十四萬口ニ分チ一口ノ金額ヲ百圓トス

第八條ノ二　政府ハ第六條ノ二ノ規定ニ依ル資本金ノ增加ノ爲千萬圓ヲ商工組合中央金庫ニ出資ス

第六條ノ二ノ規定ニ依ル增加資本金ニ付テハ組合又ハ聯合會ハ其ノ出資額ニ對シ出資スベキコトト爲リタル當初ニ於テ出資額ノ五分ノ一ヲ拂込ミ爾後十年間ニ其ノ殘餘ヲ拂込ムモノトス

第二十八條ノ三　第二十八條第一項第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ商工組合中央金庫ヨリ貸付ヲ受ケタル組合又ハ聯合會ガ解散シタル場合ニ於テハ左ノ各號ニ揭グル法人ニシテ商工組合中央金庫ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルモノハ同項第一號及第二號ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ所屬組合又ハ所屬聯合會ト看做ス

一　當該組合又ハ聯合會ノ構成員(構成員ノ構成員ヲ含ム以下同ジ)タリシ者ノ全部又ハ一部ヲ以テ組織スル法人

二　當該組合又ハ聯合會ノ構成員タリシ者ノ全部又ハ一部ト其ノ他ノ者トヲ以テ組織セラレ當該組合又ハ聯合會ノ主タル事業設備ヲ取得シタル法人

三　前各號ニ揭グル法人ニ準ズル法人ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ

第二十九條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

四　前號ニ揭グル組合若ハ聯合會ニシテ解散シタルモノ(以下解散組合ト稱ス)ノ構成員タリシ者ノ全部若ハ一部ヲ以テ組織スル會社、解散組合ノ構成員タリシ者ノ全部若ハ一部ト其ノ他ノ者トヲ以テ組織セラレ解散組合ノ主タル事業設備ヲ取得シタル會社又ハ法令、法令ニ基ク命令若ハ行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ基キ事業ノ統制ノ必要上設立シタル會社ニ對シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ短期貸付ヲ爲スコト

第三十九條中「九月迄及十月ヨリ」ヲ削ル

第四十九條中「三十事業年度間」ヲ「昭和二十七年三月ヲ以テ終ル事業年度迄」ニ改ム

附　則

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（國務大臣岸信介君登壇）

○國務大臣（岸信介君）　只今議題ト相成リマシタ商工經濟會法案、商工組合法案竝ニ商工組合中央金庫法中改正法律案ノ三法案ノ提案ノ理由ヲ御説明致シマス

先ヅ商工經濟會法案ニ付テ申上ゲマス、時局下決戰體制確立ノ爲メ、國民經濟ノ總力ヲ戰力增强ノ目的ニ集中シ、之ヲ最モ有效ニ發揚セシムルコトガ緊急ノ要務デアルコトハ、玆ニ申ス迄モナイ所デアリマス、是ガ爲ニハ國內產業經濟ノ組織ヲ整備强化致シマシテ、戰爭遂行力ノ强化ニ寄與セシムルコトガ最モ肝要ナリト存ズルノデアリマス、產業組織ノ整備確立ニ付キマシテハ、曩ニ統制會制度ノ實施ニ依リマシテ、重要產業部門ニ對シテ、ソレ／＼業種別ニ生產、配給、消費ヲ縱ニ貫ク統制組織ヲ完備致シマシテ、其ノ下部機構竝ニ統制會外ノ業種ニ於ケル各種組合モ、今般議會ニ提出ニ係ル商工組合法ガ實施セラルルニ至リマスレバ、整備セラレルノデアリマスルガ、是等各業種、業態ヲ打ッテ一丸トシ、綜合的團體ヲ結成スルコトニ依リ、異業種、異業態ヲ通ズル全體的調整ヲ圖リ、以テ總力發揮體制ノ完璧ヲ期セントスルノガ、本法制定ノ第一ノ理由デアリマス、次ニ現下ノ統制經濟ハ、府縣ノ行政ヲ通ジテ、地域的ニ實施セラレツツアルノデアリマシテ、而モ是等產業經濟運營ノ實相ハ、府縣ノ特性ニ應ジ、ソレ／＼相違致シテ居ルノデアリマスガ故ニ、府縣經濟行政ト表裏一體ヲ爲ス綜合的地方產業團體ヲ整備シ、官民一致シテ府縣經濟行政ノ迅速、且ツ的確ナル徹底ヲ圖リマスト共ニ、地方產業全般ノ實情ヲ明確ニシ、以テ統制經濟ノ運營ヲ圓滑ナラシメントスルノガ、本法制定ノ第二ノ理由デアリマス、最後ニ各地方產業經濟ハ、ソレゾレ其ノ地方ノ特殊事情ニ基キマシテ、發達向上シテ參ッタノデアリマスルガ、其ノ各地方ノ持ツ特殊性ヲ遺憾ナク發揮セシメ、產業經濟ノ改善向上ニ努メシムル地方經濟團體ヲ設立シ、以テ國家產業經濟力ノ向上ニ資セシメントスルノガ、本法制定ノ第三ノ理由デアリマス、以上申述ベマシタ三點ガ本法制定ノ主要ナル理由デアリマスルガ、本法制定ニ依リ、從來ノ地域的綜合經濟團體タル商工會議所ニ關スル商工會議所法ハ、同時ニ之ヲ廢止セントスルノデアリマス

次ニ商工組合法案ニ付テ御説明致シマス、重要產業部門ニ於キマシテハ、既ニ統制會制度ニ依リマシテ、其ノ上部統制組織ヲ整備致シタノデアリマスルガ、其ノ下部門竝ニ一般商工業部門ニ於キマシテハ、重要產業團體令ニ依ル統制組合、各種組合法ニ依ル商業組合、工業組合、同業組合等、各種ノ組合制度ガ存在スルノデアリマシテ、是等組合制度ハ、現下ノ經濟情勢ニ徵シマスルニ、何レモ一長一短ノ弊ガアルノデアリマス、是ニ於キマシテ商工鑛業ニ關スル完全ナル統制團體トシテ、新タニ統制組合制度ヲ設ケ、之ニ依リマシテ商工鑛業部門ノ統制機構ヲ整備セントスルノガ、本法制定ノ第一ノ理由デアリマス、本法制定ノ第二ノ理由ト致シマシテハ、現下ノ經濟情勢ニ鑑ミマシテ、各種產業部門ノ能率昂揚ヲ一層推進致サネバナラヌノデアリマスルガ、他面中小經營ノ長所ヲモ活用スルコトヲ必要トスル場合モアリマスルノデ、中小企業ノ爲ノ共同經營組織ト致シマシテ、施設組合ヲ設ケントスルノデアリマス、右ノ統制組合及ビ施設組合ノ指導、連絡ヲ圖ル中央機關ト致シマシテ、商工組合中央會ヲ設立セントスルノガ、本法ヲ制定致サントスル第三ノ理由デアリマス

次ニ商工組合中央金庫法中改正法律案ニ付テ御説明致シマス、商工組合中央金庫ハ、商業組合、工業組合等、商工業關係組合ニ對スル金融ノ圓滑ヲ圖ルコトヲ目的トシテ設立セラレタノデアリマスルガ、設立後商業組合、工業組合等ノ飛躍的增加ト相俟ッテ其ノ業務モ急速ニ擴充セラレテ參ッタノデアリマス、既ニ商工債券ノ發行餘力モ僅少ト相成ッテ居ル狀態デアリマス、然ルニ後ニ述ベマスル通リ、從來ノ組合ヲ改組設立シタル會社、其ノ他統制ノ必要上設立シタル會社等ニ對シマシテモ、資金ノ融通ヲ行フ必要ガアリマスルノデ、將來本金庫ノ所要資金ハ、急激ニ增加スルモノト豫想セラルルノデアリマス、隨テ商工組合中央金庫ノ現在ノ資本金ヲ以テ致シマシテハ、到底利用者ノ需要ニ應ズルコトハ、困難ト認メラレマスルノデ、商工組合中央金庫ノ資本金ヲ增加シテ、政府竝ニ組合ヨリ出資セシメントスル次第デアリマス

次ニ商工組合中央金庫ハ、現在商工業關係組合ニ對シテノミ資金ヲ貸付ケ得ル建前ニナッテ居ルノデアリマスルガ、近時產業整備ノ必要ニ基キマシテ、商工業關係組合中ニ於キマシテモ、組合ヲ改組シテ會社形態ニ移行スルモノガ、少カラザル狀況デアリマス、隨ヒマシテ從來商工組合中央金庫ニ所屬シテ居ル商工業關係組合ニシテ、改組ニ依リ加入者タル資格ヲ喪失シタルモノニ對シマシテモ、貸付ノ繼續ヲ認メマスルト共ニ、商工組合中央金庫ニ所屬シテ居ラナカッタ組合、又ハ聯合會ガ改組設立シタ會社等ニ對シマシテモ、將來中小商工業トシテ金融ノ必要ヲ生ジマシタ際ニハ、短期ノ貸付ヲ認メントスルモノデアリマス、尙ホ商工組合中央金庫ノ事業年度ハ現在年二回トナッテ居リマスルガ、手續ノ簡素化等ヲ圖ル趣旨ヨリ致シマシテ、之ヲ年一回ニ改正セントスルモノデアリマス、商工經濟會法案外二件ノ提案理由ハ、以上ノ通リデアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協贊ヲ與ヘラレンコトヲ切望スル次第デアリマス（拍手）

○議長（岡田忠彥君）　質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス――中村梅吉君

（中村梅吉君登壇）

○中村梅吉君　私ハ只今議題トナリマシタ商工省關係ノ法案ニ關シマシテ、數箇ノ點ニ付テ質疑ヲ致シタイト思フノデアリマス

質疑ノ第一ハ、商工組合法案ニ基ク組合

組織ト極メテ密接ナル關係ヲ有スル企業整備ノ問題ニ付テデアリマス、商工組合法中ニ於キマシテモ施設組合ノ制度ニ依リマシテ、企業整備ニ之ヲ活用セントスル意圖ガアルヤウデアリマスガ、政府ガ御提案ニナッテ、目下審議中ニ屬シマスル戰時行政特例法案、及ビ之ニ關聯スル戰時行政職權特例等ノ施策ニ依リマシテ、超重點五大産業ニ對シマシテハ、物資、勞務、動力、資金等之ヲ集中動員シテ、飛躍的生産ノ增强ヲ期セラレテ居ルノデアリマス、其ノ當然ノ歸結ト致シマシテ、他ノ一般産業ニ及ボスベキ影響ノ極メテ甚大デアリマスコトハ、是等ノ委員會等ニ於テ、政府ガ既ニ言明セラレテ居ル所ニ依リマシテモ、大體推察スルコトガ出來ルノデアリマス、隨ヒマジテ企業ノ整備再編成ハ、此ノ決戰下ニ於ケル超重點五大産業ノ生産增强、之ニ全力ヲ集中スル態勢ノ下ニ、新タナル工夫構想ガ加ヘラレナケレバナラナイト思フノデアリマス、其ノ新タナ工夫構想ハ、整備ヲ要スル全産業ニ亙リマシテ、整備ノ對象トナルベキ人及ビ物ガ、刻下緊要ノ目標ニ向ツテ最モ效率的ニ活用セラレ得ルガ如キ積極的方策デナケレバナラヌト思フノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテ、商工大臣ノ率直ナル御答辯ヲ煩ハシタイト思フノデアリマス

又小賣業ノ整備ニ付キマシテハ、昨年四月ノ二十一日閣議決定ヲセラレマシテ以來、第一次ニ整備ヲ實施セントスル十種ノ業種ニ付テ、御指定ニ相成ツタノデアリマス、其ノ進捗狀況ハ如何樣ニ相成ツテ居ルデアリマセウカ、又之ニ伴フ更生金庫ノ運營等ニ付キマシテハ、大イニ更生金庫ノ運營ニ改善ヲ加フベキ意見モ、世上多イノデアリマス、同時ニ此ノ更生金庫ノ運營狀況ニ付テモ、此ノ機會ニ承ルコトガ出來レバ仕合セデアルト存ジマス

更ニ私ハ一歩ヲ進メマシテ、此ノ戰局ノ進展ニ伴ツテ、甚ダシク事態ノ變化ヲ來シテ居リマスル點ニ付テ、政府當局ノ御所見ヲ承リタイノデアリマス、卽チ政府ガ小賣業整備要綱ヲ閣議決定セラレマシテ以來、決戰體制ハ日ト共ニ緊迫ノ度ヲ加ヘテ參リマシテ、事態ハ著シク變化ヲ致シテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ見方ニ依リマシテハ、企業ノ整備ニ關シマシテハ、國全體トシテ全面的ニ、ソレ／＼能力ニ應ジタ職能再編成ノ根本的檢討ノ必要スラ感ゼラレルノデアリマス、政府ガ既定方針ヲ遂行セラレルト致シマシテモ、殘存業者ニ依ル共助金造成ノ如キ事柄モ、極メテ困難ナ情勢ニナリツツアルト思フノデアリマス、斯カル新事態ニ對處致シマスル爲ニハ、何等カ之ニ適切ナル新タナ方途ガ加ヘラレナケレバナラナイト思フノデアリマス、果シテ政府ハ從來ノ御方針ニ對シテ、更ニ新タナル構想ヲ加ヘラレントスル御考ヘガアルカドウカ、ソレトモ從來ノ御方針ニ、根本的ニ一ツ改メテ檢討ヲ加ヘルト云フ御考ヘガアルカドウカ、或ハ昨年四月二十一日ノ閣議決定ヲ、飽クマデ一貫不動ノ方針トシテ遂行セラレントスル御考ヘデアリマスカドウカ、是等ノ點ニ付テ伺ヒタイト存ジマスルト同時ニ、第二次、第三次ノ要整備業種ノ指定ハ如何樣ニナサル御積リデアリマスカ、又只今提案理由中ニモ御說明ノアリマシタ共同施設組合、商工組合法ニ依リマス所ノ施設組合ノ制度ハ、本法ノ制定ニ依リマシテ、企業ノ整備ノ上ニ幾許ノ貢獻ヲナシ得ルモノデアリマスカ、是等ノ點ニ付キマシテ、商工大臣ヨリ明確ナル御答辯ヲ承リタイト存ズルノデアリマス

次ニ私ハ農林、內務兩當局ニ承リタイノデアリマス、企業ノ整備ハ何レノ方法ニ依ルカハ別ト致シマシテ、全ク今日國家ノ至上命令的要請デアルコトハ申スマデモアリマセヌ、何ト致シマシテモ、其ノ遂行ハ期サナクテハナラナイ、併シナガラ其ノ實行ハ極メテ難事デアリマシテ、此ノ至難ナル問題ヲ遂行スル爲ニハ、關係諸官廳ガ、眞ニ緊密一體トナツテ、當業者ノ深キ理解ヲ求メツツ、是ガ圓滑ナル遂行ヲ期サナクテハナラヌト思フデアリマス、卽チ企業ノ整備ニ付キマシテハ、商工省ノ所管ニ屬スル業態モゴザイマス、或ハ又農林省、厚生省、內務省等ノ所管ニ屬スル業態モアルノデアリマシテ、是等各省間ノ足並ガ眞ニ緊密一體トナラナケレバ、整備ノ遂行ヲ圓滑ニ、而モ當初ノ所期ノ目的ニ向ツテ、解決ヲ遂ゲルコトガ出來ナイノデアリマス、同時ニ實施官廳タル地方廳ノ協力ト云フモノハ、何トシテモ必要デアリマス、然ルニ現狀ヲ見マスルト、ドウデアリマセウカ、企業整備ニ關スル限リ――他ノコトヲ私ハ申シマセヌガ、企業整備ニ關スル限リニ於テハ、遺憾ナガラ關係各省ノ足並ガ揃ツテ居ナイト申上ゲルノ外ナイト思フノデアリマス(拍手)殊ニ甚ダシキ事柄ハ、農林省所管ニ屬シマスル産業組合トノ關係デアリマス、一例ヲ簡單ニ申シマスルナラバ、實施官廳タル地方廳ガ非常ニ苦心ヲ拂ハレテ、産業組合ト小賣業トノ調整ヲ圖リマシテ、小賣業ノ整備ヲ推進シツツアリマスル眞最中ニ於テ、中央ヨリハ産業組合中央金庫アタリカラ、全ク別個ナ趣旨ノ指令ナドガ發セラレマシテ、非常ニ混亂ヲ來シタリ、或ハ整備後ノ小賣業ノ分野ニ對シテ、産業組合ガ進出セントスルガ如キ機運、情勢ガ現ハレマシテ、是ガ爲ニ意外ナル支障ヲ來シツツアル地方ガ、現ニ存スルノデアリマス(ヒヤ／＼)斯クノ如キ現象ハ、要スルニ小賣業ト産業組合トノ分野ニ付テ、中央ニ於ケル明確ナル調整ガ整ツテ居ナイ證左デアルト言ハナケレバナラヌト思フノデアリマス(拍手)速カニ其ノ調整ヲ要スル所デアルト存ジマス、此ノ點ニ付キマシテハ、特ニ私ハ農林大臣ヨリ御所見ヲ承リタイト存ズルノデアリマス、又先程申シマシタヤウニ、實施官廳タル地方廳ノ努力ト手腕トニ俟ツベキモノ、極メテ大ナルモノガアリマスルガ故ニ、是ガ實施ニ當リマシテハ、特ニ內務當局ノ熱意アル協力ガナケレバ、企業ノ整備ト云フモノハ遂行サレナイ、此ノ點ニ付テ內務大臣ヨリ御所見ヲ承リタイノデアリマス

次ニ私ノ伺ヒタイト存ジマスルコトハ、轉廢業者ノ收容方策ニ付テデアリマス、今日勞働力ノ充足ハ刻下一大急務デアリマ

ス、而シテ其ノ不足セル勞力ヲ如何ニシテ補充スルカ、其ノ補充ノ源泉トナルモノハ、一ニ企業ノ整備ニ依ツテ生ズル勞力ノ調整ニ存スルト思フノデアリマス、然リト致シマスナラバ、轉廢業者ノ收容、活用ノ方策、即チ轉廢業者ノ人々ガ追込マレタ現狀ニ居リマスルヨリハ、喜ビ勇ンデ國家ノ急ニ應ジ得ルガ如キ適切ナル、積極的指導助成ノ方策ガ、凡ユル手段ヲ盡シテ施サレナケレバナラナイト、私ハ思フノデアリマス(拍手)勤勞訓練所ニ致シマシテモ、明年度ニ近ク二箇所增設スルヤニ聞イテ居リマスルガ、迚モ是デハ如何トモ致シ方ガナイ、大規模ナル增設擴充ノ必要ガアルト、私ハ存ズルノデアリマス、又單ナル勤勞訓練ト云フコトニ止マラズシテ、更ニ進メテ技術ノ指導、養成ト云フコトニ付テモ、大イニ意ヲ用ヒナケレバナラナイ、賃金或ハ諸給與等ニ付キマシテモ、時局下ノ犧牲者デアル轉廢業者ニ對シテハ、特別ノ考慮ガ拂ハレルトカ、或ハソレガ種々ナル事情デ出來ナイトスルナラバ、被徵用者ニ對スルガ如クニ、援護制度ヲ確立スルト云フヤウナコトガ絕對ニ必要デアル、斯クシテ彼等ヲシテ後顧ノ憂ナカラシムルト云フコトガ、最モ緊切デアルト私ハ考ヘルノデアリマス(拍手)是等ノ點ニ付キマシテ、厚生大臣ヨリ御答辯ヲ賜ハリタイト存ジマス

最後ニ私ハ商工經濟會法案ニ依ツテ創立致サレマスル商工經濟會ノ事柄ニ付テ、簡單ニ商工大臣ヨリ御答辯ヲ承リタイノデアリマス、從來ノ商工會議所法ニ依リマスト、法制上日本商工會議所ナル全國的ノ組織ガ規定致サレテ居ツタノデアリマス、然ルニ今回政府ノ御提案ニ係リマスル商工經濟會法案ニ依リマスト、道府縣ノ單位團體ダケシカアリマセヌ、全國的綜合組織ニ付キマシテハ、全ク考慮ガ拂ハレテ居ナイノデアリマス、商工經濟會法案ニ依ツテ、此ノ團體ヲ設ケルコトハ、時局下國家行政ニ大イニ協力ヲセシメルト云フコトガ、大ナル目標デアルヤウニ存ズルノデアリマスガ、綜合的團體組織ニ考慮ヲ拂ハズシテ、府縣單位ノ團體ノミデアルトスルナラバ、私ハ其ノ團體意思、或ハ其ノ協力ノ範圍ト云フモノガ、動モスレバ地方的、割據的ニ墮シテ、サナキダニ地方割據ノ弊、聲高ク叫バレテ居リマスル今日、左樣ナ結果ニ此ノ團體ノ運營ニ付テモ陷ル虞ガアルノデハナイカ、國家全體トシテノ綜合性ヲ發揮セシムルヤウナ工夫ガ、當然施サレナケレバナラナイト思フノデアリマスケレドモ、政府ハ斯カル全國的綜合機關ニ付キマシテハ、本法案ノ外ニ別途ニ何等カ施策セラレテ居ル所ガアルノデアリマスカドウカ、此ノ點デアリマス、モウ一點ハ此ノ法案ニ依ツテ創立サレマス所ノ商工經濟會、或ハ統制會、或ハ既存ノ經濟聯盟、或ハ商工組合、是等ノ經濟、產業ニ關スル諸團體ノ全國的綜合機關、是モ必要デアルカニ存ズルノデアリマス、是等ノ點ニ付キマシテ商工當局ハ强力且ツ綜合的ナル全國組織ニ付テ、御考究ニナル御考ヘガアルカドウカ

以上ノ點ニ付キマシテ商工大臣ノ御所見ヲ承リタイト存ズル次第デゴザイマス、私ノ質疑ハ之ヲ以テ終リマス(拍手)

〔國務大臣岸信介君登壇〕

○國務大臣(岸信介君) 只今ノ御質問中、私ニ對スル分ニ付キマシテ御答ヘ致シマス

第一ノ點、即チ戰力增强超重點產業ニ對スル資材、勞務、資金、動力等ヲ集中動員スル結果、一般產業ニ對スル影響、之ニ關聯シテノ企業整備ノ問題デアリマス、御意見ノ如ク戰力增强ノ爲ニ、特ニ五大重點產業竝ニ之ニ協力スベキ一聯ノ產業ニ、生產ニ關スル勞務、資材、動力、資金ト云フヤウナ手段ヲ集中致シマスル結果、必然的ニ他ノ產業方面ニ於テ、相當ニ是等ノ規制ヲシナケレバナラヌ狀況デアリマス、隨ヒマシテ此ノ結果、一般產業界ニ及ボス影響ニ付キマシテハ、政府ハ出來得ル限リ、此ノ影響ヲ緩和スルコトニ努メマスルト共ニ、是カラ生ジマスル所ノ色々ナ事態ニ對シマシテハ、十分ナル措置ヲ講ジマシテ、產業界全體ニ不安ヲ與ヘ、若シクハ動搖ヲ與ヘルヤウナコトナカラシムル積リデアリマス、特ニ勞務、資材等ノ積極的效率發揮ヲ圖リマスル爲ニ、特別ノ工夫ト構想ヲ要スルト云フ御意見ニ關シマシテハ、全然同感デアリマシテ、此ノ產業整備ニ依ツテ生ズル所ノ設備資材、勞務等ノ最高度ノ活用ニ付キマシテハ、十分遺憾ナキヲ期スル積リデアリマス

次ニ小賣業整備ノ問題ニ關スル御質問デアリマス、小賣業整備ニ付キマシテハ、昨年小賣業整備要綱ヲ定メ、之ニ基イテ第一次指定ヲ致シマシテ、第一次ニ整備スベキ業種ヲ指定シタノデアリマス、是ハ着々進行中デアリマシテ、大體本年三月中ニハ完了ノ見込デアリマス、而シテ是等產業整備ニ伴フ轉業對策ト致シマシテハ、從來轉業者ノ錬成、轉職先ノ斡旋、營業用資產ノ引受、共助金制度ノ運用、其ノ他生活安定ニ對スル對策ト云フモノニ付キマシテ、遺憾ナキヲ期シテ參ツタノデアリマスルガ、現ニ國民更生金庫ノ本年一月末現在ニ於ケル貸付狀況ヲ見マスルニ、轉廢業者ノ資產引受ヲ見返リトスル貸付ハ約一億二千万圓ニ上ツテ居リマス、又組合ノ共助資金ノ爲ノ貸付ハ約八千万圓、合計二億圓ヲ突破スル狀況デアリマシテ、今後此ノ更生金庫ノ活動モ、一段ト活潑ニ相成リマシテ、是等轉廢業者ノ措置ニ付キマシテ、十分其ノ設立ノ使命ヲ達成スルモノト信ジテ居リマス

今後ノ整備狀況竝ニ之ニ對スル政府ノ方針デアリマスルガ、御意見ノ如ク、今日マデノ狀況ト、今後ノ產業整備ノ狀況ト云フモノハ、餘程度合ガ違フト思フノデアリマス、先刻モ御答ヘ致シマシタヤウニ、戰力增强ノ爲ニ凡ユル力ヲ總動員シマス結果ハ、更ニ一段他ノ產業部門ニ於ケル整備ヲ强化セナケレバナラナイ必要ニ迫ラレテ居リマス、隨ヒマシテ共助金等ノ制度ニ付キマシテモ、從來ノ如ク殘存業者ガ轉廢業者ニ對シテ相當額ノ共助金ヲ支出スルト云フコトモ、業界ノ實狀カラ見マスト云フト、非常ニ困難ニ相成ルダラウト思ヒマス、隨ヒマシテ是等ノモノニ對スル措置トシマシテハ、今マデ執

ツテ參リマシタ政府ノ諸施策ヲ更ニ一段强化致シマシテ、十分ニ此ノ新シイ情勢ニ應ズルダケノ措置ヲ講ゼナケレバナラナイト考ヘテ居リマス、具體的方策ニ付キマシテハ、目下政府部內ニ付キマシテ研究中デアリマシテ、十分是等ノ點ニ付キマシテハ、新シイ考ヘノ下ニ善處スル積リデアリマス

又小賣業者ノ第二次、第三次等ノ指定ヲ如何ニスルカト云フ問題デアリマスルガ、此ノ點ニ關シマシテハ、今日ノ情勢ニ於キマシテ、第二次、第三次ノ指定ヲ續イテナスヤ否ヤト云フコトモ、今申シマシタ一般情勢ト睨合ハシテ、是ハ決定スベキモノデアツテ、今日直チニ引續イテ二次、三次ノ指定ヲナスト云フコトハ適當デナイト思ヒマスノデ、一般情勢ト睨合ハシタ上ニ、更ニ措置スルコトニ致シタイト思ヒマス

次ニ施設組合――商工組合法案デ設立セラレル所ノ施設組合ハ、此ノ產業整備ノ上ニ、如何ニ活用サレルカト云フ點ニ關スル御質問デアリマシタガ、施設組合ハ、先刻提案ノ理由ニ於キマシテ說明申上ゲマシタ通リ、我ガ國中小企業ノ特性ヲ十分ニ活カシテ、サウシテ而モ此ノ戰時下ニ於テ、中小企業者トシテ十分ニ其ノ職域ニ奉公出來ル爲ニ、此ノ共同施設ヲスルト云フノガ、施設組合ノ狙ヒデアリマシテ、此ノ產業整備ニ當リマシテハ、二ツノ問題ガ言フマデモナクアルノデアリマシテ、一ツハ轉廢業ヲスル人ニ對スル適當ナ措置ヲ講ズルト云フコトデアリマス、一ツハ殘存業者ガ立派ニ將來其ノ職域ニ於テ御奉公出來ルト云フ安定ヲ與ヘルト云フコトデアリマス、而シテ施設組合ガ最モ大キク狙ツテ居リマスル事柄ハ、整備サレタ業者ガ今後變化スル所ノ經濟情勢ニ對處シテ、果シテ十分ニヤツテ行ケルカドウカト云フコトヲ考ヘテ見マスト、過去ノ經驗ニ見マスルト、中々ヤツテ行ケナイト云フヤウナ事情モ生ジマスノデ、此ノ施設組合ノ活用ニ依リマシテ、或ハ金融ノ點カラ、或ハ設備ノ點カラ、十分ニ殘存シタ人ガ從來ノ業態ヲ續ケ、又繁榮シテ行クコトガ出來ルト云フコトノ施設トシテ、之ヲ考ヘテ居ル譯デアリマス

最後ニ商工經濟會法ニ關シテノ御質問デアリマシタガ、此ノ商工經濟會ガ地方府縣ヲ單位トシテ設立セラレ、而モ中央ニ於ケル綜合機構ト云フモノガ法律ニナイ、此ノ中央機構ガ必要デヤナイカト云フ御質問デアリマシタガ、法律ニハ中央ノ綜合機關ニ付テ、何等ノ規定ヲ設ケテ居リマセヌ、實際上各地方ノ商工經濟會ガ連絡協調ヲ圖リマス爲ニ、色々ナ協議會的ナモノハ出來ルト豫想シテ居リマス、例ヘバ今日或ル數多ノ府縣ヲ包括シテ、地方經濟「ブロック」ト云フヤウナモノガ出來テ居リマスガ、其ノ「ブロック」內ニ於ケル經濟會ハ「ブロック」ヲ基礎ニ協議會ガ恐ラクハ出來ルダラウ、同樣ニ中央ニ於キマシテモ、全國ノ協議會ト云フヤウナモノガ、事實上ハ出來ルダラウト思ヒマス、之ヲ法制的ニ規定シナカツタ理由ハ、御質問ニモアリマシタ通リ、今日我ガ國ノ中央ノ經濟界ノ機構ヲ見マスト、統制會ガアリ、或ハ從來日本商工會議所ガアリ、或ハ物價協力會議ガアリ、或ハ重要產業協議會ガアリ、經濟聯盟ガアルト云フ風ナ、色色ナ有力ナ團體ガ中央ニ幾ツモアリマシテ、是ガオ互ニ重複モシテ居リ、又會員ノ方カラ言ツテモ、ソレ〴〵重複シテ居ルト云フヤウナ事情ニアリマシテ、是等ヲ網羅シテ適當ナ中央機構ヲ考ヘルト云フコトノ必要ハ、今日財界一般ノ要望スル所デアリマス、而シテ之ヲ如何ニ組織スルカト云フコトニ關シマシテハ、各團體ノ沿革、又其ノ使命等モ十分ニ考慮シテ、適切ナ方法ヲ考ヘテ行ク必要ガアルト思ヒマス、此ノ法制ニ於テ特ニ商工經濟會ノ中央機關ト云フモノヲ、法的ニ固定致シマスト、サウ云フ全體ヲ綜合シテ此ノ際考ヘルベキ情勢デアルニモ拘ラズ、此ノ商工經濟會ト云フモノニ關シテ、固定的ナ中央機關ガ出來ルコトハ適當デナイト云フ見地カラ、法律ニ此ノ規定ヲ設ケナカツタ次第デアリマス（拍手）

（國務大臣井野碩哉君登壇）

○國務大臣（井野碩哉君）　中村君ノ私ニ對シマスル御質問ハ、產業組合ト商業者トノ事業分野ノ調整ニ付テノ問題デアリマスルカラ、之ニ付キマシテ御答ヘヲ申上ゲマス、小賣業整備ノ促進ト相俟チマシテ、是等商業者ト同種ノ事業ヲ行フ產業組合ノ事業分野ニ付キマシテモ、兩者ノ間ニ適當ナル調整ヲ加フル必要ガアル次第デアリマスルガ、是ガ措置ニ付テノ根本方針トシマシテハ、時局下徒ラニ配給ノ現狀ニ急激ナル變革ヲ加フルコトヲ避クルコトト致シマシテ、此ノ方針ノ下ニ各物資ニ付キマシテ、具體的實情ニ卽シ解決策ヲ講ズルコトヲ適當ト認メマシテ、目下關係者及ビ地方廳トノ間ニ、具體案ニ付キ協議ヲ進メテ居ル次第デアリマス、左樣御諒承ヲ願ヒマス（拍手）

（國務大臣湯澤三千男君登壇）

○國務大臣（湯澤三千男君）　只今ノ私ニ對シマスル御質問ニ對シテ御答ヘヲ申上ゲマス

企業整備、就中小賣業整備ノ問題ニ付キマシテハ、目下地方長官ガ主體トナリマシテ、是ガ實施ニ當リツツアルノデアリマシテ、地方長官ノ負擔致シマスル責任ハ、洵ニ重イノデアリマス、隨ヒマシテ仰セノ通リ、其ノ實效ヲ擧ゲマスルニ付キマシテ、地方長官ノ熱意ト努力ト手腕トヲ要スル次第デゴザイマス、內務省ト致シマシテハ、商工、農林、大藏、厚生等ノ各主務省ト終始緊密ナル連絡ヲ取リマシテ、地方廳ヲ督勵致シツツ、是ガ圓滿ナル遂行ニ付キマシテ、種種努力ヲ致シテ居ルノデゴザイマスガ、何分ニモ事柄ハ戰爭遂行上ニ、極メテ重大ナル影響ヲ與ヘマスル問題デアルノデアリマスルカラ、今後トモ尙ホ一段ノ努力ヲ重ネマシテ、其ノ目的ヲ達成致シタイト存ジマスル次第デアリマス（拍手）

（國務大臣小泉親彥君登壇）

○國務大臣（小泉親彥君）　私ヘノ御尋ネニ御答ヘ申上ゲマス、轉廢業者ノ活用方策ヲ一層積極化セヨト云フ御趣旨ハ、全ク御同感デアリマス、今日ノ情勢モ之ヲ最モ要求致シテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ御尋ネノ勤勞訓練所等モ目下東京、奈良ノ二箇所

ニ設置シテゴザイマスルガ、其ノ成績ガ極メテ良好デゴザイマスルノデ、先般福岡、愛知ノ二箇所ニ增設計畫ヲ立テマシテ、着手ヲ致シテ居リマスルノデ、今年ノ夏ニハ全部訓練開始ノ見込デ居リマス、之ニ依リマシテ一箇月四千人ヅツノ訓練ヲ受クル人ガ出來テ來ル譯デアリマスルガ、尙ホ不足デアリマスルノデ、御趣旨ノヤウナ意味カラ致シマシテ、十八年度ニ於テ全國ノ各府縣ニ二、三箇所ヅツ訓練所ヲ設置致シテ、之ニ依リマシテ轉廢業者ノ重要產業方面ヘノ轉出ノ準備ヲ完成致シタイ、斯ウ考ヘテ居リマス(拍手)

第二ノ要轉職者ノ技術指導、是ハ今日マデ職業補導所ヲ、全國ニ百六十箇所設置致シテ居リマシテ、機械作業、或ハ製圖作業、ソレカラ其ノ人々ノ資質ニ應ジマシタ技術指導ヲ致シテ居リマスルガ、又最近造船業ノ爲ニ、鋲打補導所ヲ六箇所拵ヘマシテ、極メテ成績宜シウゴザイマス、更ニ木造船ノ爲ニ造船工ノ補導ヲナス準備ヲ致シテ居ルヤウナ次第デアリマス

更ニ此ノ賃金ノ給與ノ問題ハ、最モ機微ナル問題デアリ、最モ重要ナル問題デアリマスノデ、此ノ要轉職者ノ賃金給與ニ關シマシテハ、特ニ彈力性アル考慮ヲ拂ツテ行キタイ、今日最高賃金等ニ於キマシテモ、一割ノ增給支給ヲ認メテ居リマスルガ、或ハ又初級賃金ノ給與ノ期間ヲ短縮スル、又更ニ今回手當デハゴザイマスルガ、約二割程度ノ增給ヲ認メタ次第デアリマシテ、將來此ノ方面ニハ凡ユル改善ノ手ヲ其ノ場所、其ノ時ニ於テ大イニ打ツテ行キタイ、斯ウ存ジテ居リマス

次ニ御尋ネデゴザイマシタ要轉職者ニ對スル援護制度ヲ、十分ニ充備セヨト云フ御說デゴザイマス、是ハ賃金制度ノ十分ナル完備ヲ得ナイ今日、殊ニ此ノ援護制度ノ必要ナルコトヲ痛感致シマシテ、從來ノ三十日間ノ生活援護ヲ、今回九十日ニ延期スルコトヲ豫定致シテ居リマスルガ、更ニ今後援護ノ色々ノ方法等ニ對シマシテハ、徹底ヲ圖ツテ參リタイ、斯ウ考ヘテ居リマス(拍手)

○**議長**(岡田忠彥君)　是ニテ質疑ハ終了致シマシタ、各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選擧ニ付テ御諮リ致シマス

○**森下國雄君**　日程第五乃至第七ノ三案ヲ一括シテ議長指名三十六名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○**議長**(岡田忠彥君)　森下君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○**議長**(岡田忠彥君)　御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ――日程第八及ビ第九ハ、便宜上一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○**議長**(岡田忠彥君)　御異議ナシト認メマス、仍テ日程第八、帝國鑛業開發株式會社法中改正法律案、日程第九、重要鑛物增產法中改正法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス――岸商工大臣

第八　帝國鑛業開發株式會社法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)　第一讀會

第九　重要鑛物增產法中改正法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)　第一讀會

帝國鑛業開發株式會社法中改正法律案

帝國鑛業開發株式會社法中左ノ通改正ス

第一條中「重要鑛物(金鑛及砂金ヲ除ク以下之ニ同ジ)ノ資源ノ開發ヲ促進シ其ノ增產ヲ圖ル爲」ヲ「重要鑛物ノ增產竝ニ鑛業(砂鑛業ヲ含ム以下之ニ同ジ)及製錬業ノ整備ヲ圖ル爲」ニ改ム

第三條中「三千萬圓」ヲ「一億一千五百萬圓」ニ、「千五百萬圓」ヲ「五千七百五十萬圓」ニ改ム

第十一條第一項第一號中「鑛業(砂鑛業ヲ含ム以下之ニ同ジ)」ヲ「鑛業又ハ製錬業」ニ改ム

同條同項第三號中「鑛業」ノ下ニ「又ハ製錬業」ヲ加フ

同條同項第六號中「鑛業又ハ製錬業」ヲ「鑛業若ハ製錬業又ハ鑛業若ハ製錬業ノ用ニ供スル器具、機械若ハ材料ノ製造業」ニ改メ同條同項ニ左ノ一號ヲ加フ

七　鑛業及製錬業ノ整備ノ爲ニスル鑛業及製錬業ノ設備又ハ權利ノ賣買、賣買ノ斡旋又ハ保有

第二十四條第一項中「又ハ重要鑛物ノ增產上」ヲ「、重要鑛物ノ增產上又ハ鑛業若ハ製錬業ノ整備上」ニ改メ同條第二項中「重要鑛物ノ增產上」ノ下ニ「又ハ鑛業若ハ製錬業ノ整備上」ヲ加フ

附　則

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

日本產金振興株式會社法ハ之ヲ廢止ス

政府必要アリト認ムルトキハ帝國鑛業開發株式會社及日本產金振興株式會社ニ對シ日本產金振興株式會社ヲ帝國鑛業開發株式會社ニ合併スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル合併ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

日本產金振興株式會社ガ帝國鑛業開發株式會社ニ合併セラレタルトキハ日本產金振興株式會社法第二十五條第一項ノ規定ニ依リ爲シタル命令ハ之ヲ帝國鑛業開發株式會社法第二十四條第一項ノ規定ニ依リ爲シタルモノト看做ス

日本產金振興株式會社ガ帝國鑛業開發株式會社ニ合併セラルルニ當リテハ日本產金振興株式會社ノ最終ノ營業期ニ於ケル利益ノ配當ハ之ヲ爲サズ但シ帝國鑛業開發株式會社ノ合併後ノ初營業年度ニ於ケル利益ノ配當ヲ爲スニ當リテハ日本產金振興株式會社ノ株式ニ引當テタル株式ニ對シテハ日本產金振興株式會社ノ最終ノ營業期ノ初ヨリ帝國鑛業開發株式會社ニ其ノ株式存在シタルモノト看做シテ配當スベキ金額ヲ算定スベシ

政府帝國鑛業開發株式會社法第二十九條

ノ規定ニ依リ帝國鑛業開發株式會社ノ合併後ノ初營業年度ニ於テ利益ノ配當ヲ補給スルニ當リテハ日本產金振興株式會社ノ株式ニ引當テタル株式ニ對シテハ日本產金振興株式會社ノ最終ノ營業期ノ初ヨリ帝國鑛業開發株式會社ニ其ノ株式存在シタルモノト看做シ勅令ノ定ムル所ニ依リ算定シタル金額ヲ補給スベシ

日本產金振興株式會社ガ帝國鑛業開發株式會社ニ合併セラレタルトキハ日本產金振興株式會社法第三十條第一項ノ規定ニ依リ日本產金振興株式會社ノ受ケタル補給金ハ帝國鑛業開發株式會社法第二十九條第二項ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ帝國鑛業開發株式會社法第二十九條第一項ノ規定ニ依ル補給金ト看做ス

日本產金振興株式會社ガ帝國鑛業開發株式會社ニ合併セラレタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ政府ハ帝國鑛業開發株式會社ニ對シ其ノ朝鮮ニ於ケル事業ヲ朝鮮鑛業振興株式會社ニ讓渡スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル事業ノ讓渡ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

帝國鑛業開發株式會社ガ其ノ朝鮮ニ於ケル事業ヲ朝鮮鑛業振興株式會社ニ讓渡シ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ資本ヲ一億一千五百萬圓ニ減少スル迄ハ第三條ノ改正規定ニ拘ラズ帝國鑛業開發株式會社ノ資本ハ一億四千萬圓トシ內政府ノ出資ハ七千萬圓トス

金資金特別會計法中左ノ通改正ス

第三條第一項中「二億圓」ヲ「四億圓」ニ、「產金ノ增加及金ノ集中ヲ圖ル爲」ヲ「產金ノ增加、金ノ集中及產金事業ノ整備ヲ圖ル爲」ニ改ム

第四條第一項中「產金振興債券」ヲ「鑛業開發債券、朝鮮鑛業振興債券」ニ、「日本產金振興株式會社株式（額面總額二千五百萬圓ヲ限ル）」ヲ「帝國鑛業開發株式會社株式、朝鮮鑛業振興株式會社株式」ニ改メ同項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ帝國鑛業開發株式會社株式及朝鮮鑛業振興株式會社株式ニ運用スル場合ニ於テハ額面總額二千五百萬圓ヲ限ル

登錄稅法中左ノ通改正ス

第六條第一項第十一號但書中「產金振興債券、」ヲ削ル

重要鑛物增產法中改正法律案

重要鑛物增產法中左ノ通改正ス

第一條ノ二　政府ノ指定スル地域（以下指定地域ト稱ス）ニ於ケル政府ノ指定スル鑛物（以下指定鑛物ト稱ス）ヲ目的トスル鑛業權者事業ニ著手シ又ハ休業シタル事業ヲ繼續セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ但シ第三條ノ規定ニ依ル命令アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

政府必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ニ條件ヲ附スルコトヲ得

第一條ノ三　指定地域ニ於ケル指定鑛物ヲ目的トスル鑛業權者休業シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ政府ニ屆出ヅベシ

第一條ノ四　指定地域ニ於ケル指定鑛物ヲ目的トスル鑛業權者第一條ノ二第一項ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ事業ニ著手シ若ハ休業シタル事業ヲ繼續シ又ハ同條第二項ノ條件ニ違反シタルトキハ政府ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第一條ノ五　指定地域ニ於ケル指定鑛物ヲ目的トスル試掘權ノ存續期間ハ進行ヲ停止スルモノトス

第一條ノ六　政府ハ期間、鑛物又ハ地域ヲ指定シテ鑛業又ハ砂鑛業ノ出願ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十二條第一項中「鑛業權ノ讓渡又ハ隣接鑛區トノ間ノ鑛區ノ增減ニ件ヒ必要ナル」ヲ「重要鑛物ノ增產ヲ圖ル爲必要トスル」ニ改ム

第十七條ノ二　鑛業權ハ本法ノ定ムル所ニ從ヒ之ニ使用權ヲ設定スルコトヲ得

第十七條ノ三　使用權者ハ使用鑛區ニ於テ鑛物ヲ掘採シ及之ヲ取得スル權利ヲ有ス

第十七條ノ四　本法ニ規定シタル使用權者ノ權利義務ハ使用權ト共ニ移轉ス

鑛業法若ハ砂鑛法ノ規定ニシテ使用權者ノ鑛業若ハ砂鑛業ニ關シ適用若ハ準用スベキモノニ依ル鑛業權者ノ權利義務又ハ當該規定ヲ使用權者ノ鑛業若ハ砂鑛業ニ關シ適用若ハ準用シタル場合ニ於ケル當該規定ニ依ル使用權者ノ權利義務ハ使用權ノ設定又ハ消滅ト共ニ使用權者又ハ鑛業權者ニ移轉ス但シ鑛業權ノ消滅ニ因ル使用權ノ消滅ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條ノ五　本法ニ於テ使用鑛區トハ使用權ノ登錄ヲ得タル鑛區ノ區域ヲ謂フ

使用權ハ特定ノ鑛床ヲ目的トシテ之ヲ設定スルコトヲ得

同一ノ鑛區中同一ノ區域ニ於テハ二以上ノ使用權ヲ設定スルコトヲ得ズ但シ前項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條ノ六　使用權ハ相續、讓渡、强制執行及滯納處分ノ目的タルノ外權利ノ目的タルコトヲ得ズ

第十七條ノ七　使用權ノ存續ハ一定期間ヲ限ルモノトス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第十七條ノ八　左ニ掲グル事項ハ之ヲ鑛業原簿ニ登錄ス

一　使用權ノ設定、變更、移轉、消滅及處分ノ制限

二　第十七條ノ十一第二項（第十七條ノ十四第二項及第十七條ノ十五第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）又ハ第十七條ノ十六第二項（第十七條ノ十七第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ條件中命令ヲ以テ定ムルモノ及其ノ消滅

前項ノ登錄ハ登記ニ代ルモノトス

登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條ノ九　前條第一項ニ掲グル事項ハ相續及鑛業權消滅又ハ存續期間滿了ニ因ル使用權ノ消滅ノ場合ヲ除クノ外登錄ヲ爲スニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十七條ノ十　使用權ハ其ノ登錄前當該鑛業權ニ付登錄ヲ爲シ又ハ當該鑛業權ノ屬スル鑛業財團ニ付登記ヲ爲シタル抵當權者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ズ

前項ノ抵當權アルトキハ使用權者ハ鑛業權者ニ對シ支拂フベキ使用料ヲ供託スルコトヲ要ス但シ抵當權者ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ場合ニ於テハ抵當權者ハ供託金ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第十七條ノ十一　使用權ヲ設定セントスル場合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ場合ニ於テ政府必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ニ條件ヲ附スルコトヲ得

第十七條ノ十二　鑛業權者使用鑛區ニ該當スル部分ニ付鑛區ノ分合、減區又ハ增減區ヲ出願セントスルトキハ使用權者ノ承諾ヲ受クベシ

第十七條ノ十三　使用料ガ鑛產物ノ價格ノ變動其ノ他ノ事由ニ因リ著シク不相當ト爲リタルトキハ當事者ハ將來ニ向テ其ノ增減ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ相手方ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十七條ノ十四　使用鑛區ハ之ヲ增減スルコトヲ得

第十七條ノ十一ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條ノ十五　使用權ノ移轉（相續ニ因ル場合ヲ除ク）又ハ存續期間滿了前ノ使用權消滅ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

第十七條ノ十一第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル使用權ノ移轉ノ許可ニ之ヲ準用ス

第十七條ノ十六　第四條、第五條、第七條及第十三條乃至第十五條ノ規定ハ使用權ノ設定、使用鑛區ノ增減及使用權ノ行使ニ伴ヒ必要ナル事業設備ノ使用ニ之ヲ準用ス但シ第七條中對價トアルハ使用料トス

政府必要アリト認ムルトキハ前項ニ於テ準用スル第四條第二項ノ規定ニ依ル裁定又ハ第五條第二項ノ規定ニ依ル決定ニ條件ヲ附スルコトヲ得

政府第一項ニ於テ準用スル第四條第二項ノ規定ニ依リ裁定ヲ爲シタルトキ又ハ第一項ニ於テ準用スル第五條第二項ノ規定ニ依リ決定ヲ爲シタルトキハ使用權ノ設定又ハ變更ノ登錄ヲ爲ス

第一項ニ於テ準用スル第四條第二項ノ規定ニ依ル申請アリタルトキ又ハ第一項ニ於テ準用スル第五條第一項ノ規定ニ依ル命令アリタルトキハ當該鑛業權者ハ其ノ申請ヲ拒否スル旨ノ裁定、前項ノ規定ニ依ル登錄又ハ當該事業設備ノ引渡アル迄當該鑛業權ヲ讓渡シ、當該鑛區ノ分合、減區若ハ增減區ノ出願ヲ爲シ又ハ當該事業設備ニ付讓渡其ノ他ノ處分ヲ爲シ若ハ其ノ形質ヲ變更スルコトヲ得ズ但シ政府ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第一項ノ規定ニ依ル事業設備ノ使用ハ其ノ引渡アリタルトキハ爾後其ノ事業設備ニ付物權ヲ取得シタル者ニ對シ其ノ效力ヲ生ズ

第十七條ノ十七　第四條、第五條、第七條、第九條第一項第一號、第十條、第十一條第一項及第二項前段、第十三條乃至第十五條竝ニ前條第二項ノ規定ハ使用權ノ讓渡ニ之ヲ準用ス

前項ニ於テ準用スル第四條第二項ノ規定ニ依ル申請アリタルトキ又ハ前項ニ於テ準用スル第五條第一項ノ規定ニ依ル命令アリタルトキハ當該鑛業權者又ハ當該使用權者ハ其ノ申請ヲ拒否スル旨ノ裁定アル迄、前項ニ於テ準用スル第十條第二項ノ規定ニ依リ裁定若ハ決定ガ其ノ效力ヲ失フ時期迄又ハ使用權ノ移轉ノ登錄アル迄當該鑛業權若ハ當該使用權ヲ讓渡シ又ハ當該鑛區若ハ當該使用鑛區ノ分合、減區若ハ增減區ノ出願ヲ爲スコトヲ得ズ

第十七條ノ十八　使用權者使用權ノ存續期間ヲ超エテ存續スベキ事業設備ヲ設置セントスルトキハ其ノ費用ノ負擔方法ニ付鑛業權者ト協議スルコトヲ得

前項ノ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ使用權者ハ政府ノ裁定ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル裁定ニ於テ費用ノ全部又ハ一部ヲ鑛業權者ガ負擔スベキモノト定メタル場合ニ於テハ鑛業權者ハ使用權者ニ對シ當該鑛區ガ當該使用鑛區ニ該當スル區域（當該鑛區ガ砂鑛區ニ非ザル場合ニ於テ當該使用鑛區ガ石炭ニ在リテハ五萬坪、其ノ他ノ鑛物ニ在リテハ五千坪ニ滿タザルトキハ其ノ面積ニ達スル區域ニシテ當該使用鑛區ヲ含ムモノトス以下同ジ）ト其ノ他ノ區域ニ分割シ得ルトキハ分割ニ因リ設定シタル鑛業權ニシテ當該使用鑛區ニ該當スル區域ニ設定シタルモノヲ、分割ヲ爲シ得ザルトキハ當該鑛業權ヲ買取ルベキコトヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ル裁定ハ其ノ效力ヲ失フ

前項ノ場合ニ於テ買取ノ條件ニ付協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ鑛業權者又ハ使用權者若ハ使用權者タリシ者ハ政府ノ裁定ヲ申請スルコトヲ得

第八條乃至第十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ第十條第二項中裁定又ハ決定トアルハ第三項ノ規定ニ依ル買取請求及前項ノ規定ニ依ル裁定トス

第十七條ノ十九　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ政府ハ使用權ヲ取消スコトヲ得

一　使用權者第十七條ノ十一第二項

（第十七條ノ十四第二項及第十七條ノ十五第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）又ハ第十七條ノ十六第二項（第十七條ノ十七第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ條件ニ違反シタルトキ

二　使用權者登錄ノ日ヨリ六月以內ニ事業ニ著手セズ若ハ引續キ六月以上休業シタルトキ又ハ施業案ニ依ラズシテ採掘ヲ爲シタルトキ

三　使用權者第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル鑛業法第四十三條ノ三、第七十二條又ハ第七十四條ノ四第三項ノ命令ニ從ハザルトキ

四　使用權者他人ヲシテ使用權ヲ使用セシメタルトキ

五　第十七條ノ十六第一項ノ規定ニ依リ使用權ヲ取得シ若ハ使用鑛區ヲ增加シ又ハ第十七條ノ十七第一項ノ規定ニ依リ使用權ヲ讓受ケタル使用權者使用料ノ支拂ヲ一月以上遲滯シタル場合ニ於テ鑛業權者使用權ノ取消ヲ申請シタルトキ

六　政府重要鑛物ノ增產上使用權ノ存續ヲ適當ナラズト認ムルトキ

第十七條ノ二十　使用權消滅シタルトキハ鑛業權者ハ使用權者タリシ者ニ對シ其ノ者ガ使用權ノ行使ニ伴ヒ設置シタル事業設備ヲ時價ヲ以テ賣渡スベキコトヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ使用權者タリシ者ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十七條ノ二十一　第十七條ノ十三又ハ前條ノ承諾ヲ拒マレタル者又ハ其ノ承諾ヲ得ルコト能ハザル者ハ政府ノ裁定ヲ申請スルコトヲ得

前條ノ承諾ヲ拒マレタル者又ハ其ノ承諾ヲ得ルコト能ハザル者前項ノ規定ニ依ル裁定ヲ申請シタルトキハ使用權者タリシ者ハ其ノ申請ヲ拒否スル旨ノ裁定アル迄當該事業設備ニ付讓渡其ノ他ノ處分ヲ爲シ又ハ其ノ形質ヲ變更スルコトヲ得ズ但シ政府ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條ノ二十二　第二條、第三條及第十七條第二項、鑛業法第五條、第十二條、第十五條、第十六條、第三十八條、第三十九條、第四十九條、第七十二條乃至第七十四條ノ三、第七十四條ノ八乃至第七十四條ノ十五、第七十六條乃至第七十八條、第九十二條第一項乃至第三項及第九十三條竝ニ砂鑛法第五條ノ規定ハ使用權者ノ鑛業又ハ砂鑛業ニ關シ之ヲ準用ス但シ鑛業法第三十八條中主務大臣トアルハ政府トシ第七十四條第一項及第七十四條ノ二第一項中鑛業權消滅トアルハ鑛業權消滅ニ因リ使用權消滅トシ第七十四條ノ二第一項中鑛業權消滅ノ時トアルハ鑛業權消滅ニ因ル使用權消滅ノ時トシ第七十四條ノ二第二項中二以上ノ鑛區ノ鑛業權者トアルハ二以上ノ使用鑛區又ハ二以上ノ鑛區及使用鑛區ノ使用權者又ハ鑛業權者及使用權者トシ第七十四條ノ二第三項中鑛業權者其ノ鑛業權ヲ讓渡シタルトキハ損害發生ノ時ノ鑛業權者及其ノ後ノ鑛業權者トアルハ使用權ノ讓渡、設定又ハ消滅アリタルトキハ損害發生ノ時ノ使用權者又ハ鑛業權者及其ノ後ニ於ケル使用權者又ハ鑛業權者トシ第七十四條ノ三第二項中鑛業權ヲ讓受ケタル者トアルハ使用權讓渡ノ場合ニ在リテハ使用權ノ讓受人、使用權設定ノ場合ニ在リテハ使用權者、使用權消滅ノ場合ニ在リテハ鑛業權者トシ鑛業權者トアルハ鑛業權者又ハ使用權者トス

鑛業法第九條第二項本文前段、第十二條ノ二、第四十三條ノ三乃至第四十七條、第五十條乃至第七十條、第七十四條ノ四乃至第七十四條ノ七、第七十五條及第八十條乃至第八十條ノ四竝ニ砂鑛法第六條ノ規定ハ使用權者ノ鑛業ニ關シ之ヲ準用ス但シ第七十四條ノ六中鑛業權者其ノ鑛業權ヲ讓渡シトアルハ使用權者其ノ使用權ヲ讓渡シ又ハ消滅セシメトシ讓受人トアルハ讓受人又ハ鑛業權者トス

砂鑛法第十二條乃至第十八條及第二十三條第二項ノ規定ハ使用權者ノ砂鑛業ニ關シ之ヲ準用ス

使用權ノ設定アル場合ニ於テハ第二條及第三條、鑛業法第四十三條ノ三乃至第四十七條、第五十條乃至第七十條、第七十二條乃至第七十八條、第八十條乃至第八十條ノ四、第九十二條第一項乃至第三項及第九十三條竝ニ砂鑛法第五條、第六條、第十二條乃至第十七條及第二十三條第二項ノ規定ハ當該規定ガ使用權者ノ鑛業又ハ砂鑛業ニ關シ準用セラルル限度ニ於テ鑛業權者ノ鑛業又ハ砂鑛業ニ關シ之ヲ適用セズ

第十七條ノ二十三　工業勞働者最低年齡法、石油資源開發法及國民勞務手帳法中鑛業權者トアルハ使用權者ノ鑛業ニ關シテハ使用權者トス

第十七條ノ二十四　本法ニ規定スルモノノ外使用權ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條ノ二十五　鑛業權者使用權者ニ非ザル者ヲシテ鑛業權ヲ使用セシメタルトキハ政府ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第十八條中「鑛業權者」ノ下ニ「使用權者、土地所有者又ハ關係人」ヲ加ヘ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

鑛業法若ハ砂鑛法ノ規定ニシテ使用權者ノ鑛業若ハ砂鑛業ニ關シ適用若ハ準用スベキモノニ依リ鑛業權者ノ鑛業若ハ砂鑛業ニ關シ爲シタル手續其ノ他ノ行爲又ハ當該規定ヲ使用權者ノ鑛業若ハ砂鑛業ニ關シ適用若ハ準用シタル場合ニ於テ當該規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ使用權ノ設定又ハ消滅ト共ニ使用權者又ハ鑛業權者ニ對シテモ其ノ

效力ヲ有ス但シ鑛業權ノ消滅ニ因ル使用權ノ消滅ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十八條ノ二　主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ依リ準用シタル鑛業法ニ依ル職權ノ一部ヲ鑛山監督局長ニ委任スルコトヲ得

第十九條ノ二　詐僞ノ行爲ヲ以テ使用權ヲ得タル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

過失ニ因リ使用鑛區外ニ侵掘シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ場合ニ於テハ其ノ掘採シタル鑛物ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第十九條ノ三　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第一條ノ二第一項ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ事業ニ著手シ又ハ休業シタル事業ヲ繼續シタル者

二　第一條ノ二第二項ノ條件ニ違反シタル者

三　第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル鑛業法第四十三條ノ三、第四十五條、第七十二條、第七十三條第一項若ハ第七十四條第一項又ハ砂鑛法第十六條ノ三第一項若ハ第三項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

四　第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル鑛業法第四十四條又ハ砂鑛法第十六條ノ三第二項若ハ第四項ノ規定ニ違反シタル者

五　第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル鑛業法第七十三條第二項ノ規定ニ基キテ管理者ノ職務ニ關シ發スル命令ニ違反シタル者

第二十條第一號中「第二條第一項」及「同條第二項」ノ下ニ「(第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)」ヲ加ヘ同號ヲ第二號トシ同條第二號中「第二條第三項」ノ下ニ「(第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)」ヲ加ヘ同號ヲ第三號トシ同條第三號中「第三條」ノ下ニ「(第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)」ヲ加ヘ同號ヲ第四號トシ同條第四號中「第十四條第一項」ノ下ニ「(第十七條ノ十六及第十七條ノ十七ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)」ヲ加ヘ同號ヲ第五號トシ同條第五號中「第十四條第二項」ノ下ニ「(第十七條ノ十六及第十七條ノ十七ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)」ヲ加ヘ同號ヲ第六號トシ同條第六號ヲ第七號トシ同條第一號トシテ左ノ如ク加フ

一　第一條ノ三ノ規定ニ違反シ屆出ヲ怠リ又ハ虛僞ノ屆出ヲ爲シタル者

同條ニ左ノ一號ヲ加フ

八　第十七條ノ十六第四項又ハ第十七條ノ二十一第二項ノ規定ニ違反シ事業設備ノ形質ヲ變更シタル者

第二十條ノ二　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル鑛業法第四十六條、第四十七條又ハ第七十五條乃至第七十八條ノ規定ニ違反シタル者

二　第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル鑛業法第七十四條ノ四第三項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

三　第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル鑛業法第八十條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者

第二十一條第一號中「第十七條第一項」ノ下ニ「又ハ第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル鑛業法第十二條ノ二第一項若ハ砂鑛法第十八條第一項」ヲ、同條第二號中「第十七條第一項」ノ下ニ「又ハ第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル鑛業法第十二條ノ二第一項若ハ砂鑛法第十八條」ヲ、「檢查」ノ下ニ「、搜索又ハ差押」ヲ、同條第三號中「第十七條第二項」ノ下ニ「(第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)」ヲ加ヘ同條ニ左ノ一號ヲ加フ

四　第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル鑛業法第五十三條第一項ノ許可ヲ受ケズシテ障碍物ヲ除却シタル者

第二十二條中「第二十條又ハ前條第一號若ハ第三號」ヲ「第十九條ノ二乃至第二十條ノ二又ハ前條第一號、第三號若ハ第四號」ニ、「前二條ノ刑」ヲ「前五條ノ罰金刑」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ本法施行ノ爲ニ發スル命令ニ規定スル罰則ニ之ヲ準用ス

附則第二項中「五年間」ヲ「十年間」ニ改ム

附則第三項ヲ左ノ如ク改ム

本法中使用權ニ關スル規定(第十七條ノ七第二項ノ規定ヲ除ク)ハ前項ノ規定ニ拘ラズ同項ノ期間滿了ノ際現ニ存スル使用權ノ消滅スル時迄當該使用權ニ關シ仍其ノ效力ヲ有ス

前二項ノ規定ニ依ル本法ノ規定失效ノ際ニ於テ必要ナル經過規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ事業ヲ爲ス指定地域ニ於ケル指定鑛物ヲ目的トスル鑛業權者ニシテ昭和十七年十二月一日以後事業ニ著手シ若ハ休業シタル事業ヲ繼續シタルモノ若ハ其ノ承繼人タルモノ又ハ此等ノ者ノ承繼人本法施行後引續キ其ノ事業ヲ爲サントスルトキハ本法施行後三月以内ニ第一條ノ二第一項本文ノ規定ニ準ジ其ノ事業ノ繼續ニ付許可ヲ受クベシ

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ者ハ同項ノ規定ニ依ル許可ノ申請ヲ爲サザリシトキハ同項ノ期間滿了ノ日以後、同項ノ規定ニ依ル許可ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ不許可ノ指令アリタルトキハ其ノ指令ノ日以後引續キ其ノ事業ヲ爲スコトヲ得ズ

第一條ノ二第一項但書及同條第二項ノ規定ハ第二項ノ場合ニ、第一條ノ四ノ規定

ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

本法施行ノ際現ニ事業ヲ爲ス指定地域ニ於ケル指定鑛物ヲ目的トスル鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行後一月以內ニ其ノ旨ヲ政府ニ屆出ヅベシ

第三項ノ規定ニ違反シ引續キ事業ヲ爲シタル者又ハ第四項ニ於テ準用スル第一條ノ二第二項ノ條件ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五項ノ規定ニ違反シ屆出ヲ怠リ又ハ虛僞ノ屆出ヲ爲シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條第一項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

（國務大臣岸信介君登壇）

○國務大臣（岸信介君） 只今議題トナリマシタ帝國鑛業開發株式會社法中改正法律案及ビ重要鑛物增產法中改正法律案ニ付テ、提案理由ヲ御說明致シマス

最初ニ帝國鑛業開發株式會社法中改正法律案ニ付テ御說明申上ゲマス、此ノ改正法律案ノ要點ハ要スルニ次ノ二點ニ要約セラルルノデアリマシテ、其ノ第一點ハ現在金屬鑛業關係ノ國策會社トシテハ、日本產金振興株式會社ト帝國鑛業開發株式會社トガ存在致シテ居リマスルガ、之ヲ一會社ニ統合シ、其ノ經營能率ノ增進ヲ圖ル目的ノ下ニ、帝國鑛業開發株式會社ヲシテ日本產金振興株式會社ヲ吸收合併セシメント致シマシテ、是ガ爲ニ必要ナル改正規定ヲ設ケタルコトデアリマス、其ノ第二點ハ昨今資材、勞力等ノ有效利用ヲ圖ル爲ニハ、金屬鑛業ノ部面ニ於キマシテモ企業ノ整備ヲ行ハザルヲ得ザル情勢トナッテ參リマシタノデ、合併後ノ帝國鑛業開發株式會社ヲシテ、從來ノ如ク資源ノ開發竝ニ重要鑛物ノ增產ト云フ積極的事業ノミナラズ、新タニ鑛業ノ整備ニ關スル事業ヲモ行ハシメ得ルヤウ、其ノ目的ニ關スル規定ニ付テ、必要ナル改正ヲ加ヘントスルモノデアリマス

次ニ重要鑛物增產法中改正法律案ニ付テ御說明致シマス、重要鑛物增產法ハ五年ノ有效期間ヲ付セラレテ居ル臨時立法デアリマシテ、本年六月ヲ以テ一應滿期トナリ、效力ヲ失フ豫定トナッテ居ルノデアリマスルガ、本法律案ハ現下ニ於ケル鑛業ノ實情ニ鑑ミ、此ノ有效期間ヲ更ニ延長致シマスルト共ニ、所謂重點主義ト行政事務簡素化ノ目的ヲ達成スル爲ニ、之ニ所要ノ改正ヲ加ヘ、以テ戰力增强ノ基礎タル鑛業ノ綜合生產力ヲ增强セントスルモノデアリマス、即チ本法律案ノ內容ノ第一ハ、本法ノ有效期間ヲ今後更ニ五年間延長致シ、結局本法施行後十年間效力ヲ有スルヤウニ改メタルコトデアリマス、斯樣ニ取敢ヘズ從來ノ有效期間ヲ延長致シマスルト共ニ、此ノ間ニ於テ情勢ノ推移ニ依ッテハ、更ニ鑛業法規全般ニ亙リ再檢討ヲ加ヘル等、適切ナル第二段ノ措置ヲ講ズル所存デアリマス

第二ハ鑛業及ビ砂鑛業ノ着手ニ付テ、許可制ヲ採用シタルコトデアリマス、是ハ鑛業ニ付テモ重點主義ヲ貫徹センガ爲メ、指定地域ニ於ケル指定鑛物ヲ目的トスル鑛業權者ノ事業着手ヲ、政府ノ許可ニ係ラシメ、以テ各種生產手段ヲ高能率鑛山ニ集中活用セントスルモノデアリマシテ、是ト同時ニ此ノ許可性ヲ實施スル試掘權ノ存續期間ハ、其ノ進行ヲ停止スルコトトシ、着手許可性ガ試掘權者ニ酷トナル結果ヲ避ケテ居ルノデアリマス、尙ホ此ノ許可性ヲ實施セントスル鑛物ノ種類ハ、時局ニ鑑ミ之ヲ少數ニ限定致シタイト考ヘテ居リマス

第三ハ、出願ノ價值ナキ場合、其ノ他必要ナル場合ニ、一定ノ期間鑛物又ハ地域ヲ指定シテ、鑛業又ハ砂鑛業ノ出願ヲ制限又ハ禁止シ得ルコトトナシタルコトデアリマス、是ハ要スルニ出願人ノ徒勞ヲ防グト共ニ、行政事務ノ簡素化ヲ圖リ、以テ重點主義ト行政事務ノ簡捷化ノ要請ニ應ヘントスルモノデアリマス

第四ハ鑛業權及ビ砂鑛權ニ對スル使用權設定ノ途ヲ開イタコトデアリマス、鑛業權又ハ砂鑛權ヲ他人ニ使用セシムルコトハ、從來無效デアッタノデアリマスルガ、今後ハ斯カル使用權ヲ增產達成ノ爲ノ一手段トシテ活用セントスルモノデアリマス、勿論現存スル石炭山ノ所謂斤先掘ハ、固ヨリ既定方針ノ通リ之ヲ整理シ、是ガ其ノ儘當然使用權ニ移行スルヤウナコトハ許サナイ方針デアリマス、以上ノ事由ニ依リマシテ、茲ニ帝國鑛業開發株式會社法中改正法律案、及ビ重要鑛物增產法中改正法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協贊アランコトヲ希望致シマス（拍手）

○議長（岡田忠彥君） 質疑ノ通告アリマス、順次之ヲ許シマス――川俣淸音君

（川俣淸音君登壇）

○川俣淸音君 私ハ只今議題トナリマシタ法案ニ付キマシテ、四條項ニ分ケテ質問致シタイト思フノデゴザイマス、其ノ何レモガ戰力增强ノ爲メ、其ノ原料產業タル地下資源ノ開發ニ必要ナル鑛山政策ノ基幹ニ關スル、政府ノ所見ヲ質シタイノデゴザイマス

第一ハ、帝國ノ鑛業政策ハ、大東亞鑛山開發ノ基本政策デナケレバナリマセヌ、其ノ所見ヲ伺ヒタイノデアリマス、大陸ニ、南方ニ、鑛物資源ノ開發事業ガ着々ト進展致シテ居リマスルコトハ、皆樣ノ御認メノ通リデゴザイマシテ、東亞共榮圈建設ノ上ニ、重要ナ役割ヲ果シツツアルノデゴザイマス、是ハ日本ノ鑛業政策ガ、決シテ外國ニ劣ッテ居ナイ證據デアルト、私ハ考ヘルノデゴザイマス、是ハ遠ク和銅年間カラ豐臣秀吉、德川家康トニ依ッテ基礎付ケラレマシタ我ガ鑛業政策、鑛山政策ノ傳統ノ賜モノデアルト思フノデアリマス、一寸過去ヲ振返ッテ見マスル時ニ、正保年間カラ寶永年間ノ間、約五、六十年ノ間ニ於ケル我ガ鑛業界ノ發展ノ模樣ヲ、茲ニ申上ゲマスルナラバ、長崎ノ港カラ海外ニ流出致シマシタ銅ノ流出高ガ一億一万一千四百四十九斤、五、六十年ノ間ニ流出シテ居リマス、是ダケノ我ガ鑛山界ノ發展ガアッタト見ナケレバナリマセヌ、金ニ於キマシテハ、二

百三十九万七千六百兩ダケ五、六十年間ニ於テ、流出致シテ居リマス、是モ亦我ガ鑛業界ノ盛ンナル有樣ヲ、是デ窺フコトガ出來ルト思フノデアリマス、併シナガラ斯ノ如ク諸外國ニ優ツテ居ル我ガ鑛業界デハアリマスルケレドモ、今日以後ヲ考ヘテ參リマスト、今日ノ程度ニ於テ滿足スベキモノデハナクシテ、帝國ノ確乎不動ノ鑛業政策ノ樹立ガ、必要デアルト思フノデアリマス、元來佛教ガ我ガ國ニ入ツテ參リマシタノハ、日本ニ銅ヲ求メテ佛教ガ傳來シタト言ハレテ居リマス、金ヲ求メテ「キリスト」教ガ入ツタト言ハレテ居リマス、斯ノ如ク我ガ鑛業界ト云フモノハ、決シテ諸外國ニ劣ルモノデハフリマセヌケレドモ、今日更ニ一歩ヲ進メマシテ、確乎不動ノ鑛山政策ト云フモノヲ、今日樹立シナケレバナラナイ時期ニ到達致シテ居ルト私ハ考ヘルノデゴザイマス

其ノ第二ハ、戰力增强ニ卽應スル事業法的鑛業法ヲ何故ニ提案セラレナカツタノカ、其ノ理由ト所見トヲ伺ヒタイノデアリマス、卽チ鐵、石炭、銅等、地下鑛物資源ガ戰力增强ノ基礎デアルコトハ、提案理由ニモ明カデアリマス、然ルニ現行ノ鑛業法規ハ、鑛業權ノ設定等ノ權利ノ創設、權利ノ行使等ニ關スル取締規定デアリマス、所謂鑛山行政ハ、鑛業警察行政的法規デアルト言ハレテ居ルノデゴザイマス、隨テ取締法規デアリマスルカラ、增產ニ必要ナ事業的ナ指導、助成、助長等ノ色彩ト云フモノガ、毛頭此ノ鑛業法ノ中ニハ發見出來ナイノデアリマス、隨テ鑛業政策ノ缺如セル無政策極マル法規ノ下ニ、增產ヲ圖ルト云フコトハ、不可能デアラウト私ハ考ヘルノデアリマス、今日外國模倣カラ脫却致シマシテ、日本的ナ鑛業政策ガ盛ラレタ潑剌タル活動的基本法ノ創設ガ、最モ緊要デアルト考ヘルノデアリマス、仍テ政府ハ此ノ度此ノ補正ノ意味ヲ以テ、此ノ重要鑛物增產法ノ期間ノ延長案ヲ提出サレタト思フノデゴザイマスガ、此ノ法案ノ目的、趣旨ハ贊成デアリマスルケレドモ、併シナガラ政策ノナイ法律、根本法、基本本法ノ中ニ政策ガ盛ツテアリマセヌケレバ、增產ハ期セラレナイト私ハ思フノデアリマス、基本法ガ警察法規的ナ考ヘノ下ニ立案サレテ居ルノデアリマスカラ、事務ガ非常ニ多クナツテ、政治ノナイ鑛山政策ニ相成ツテ居ルノデアリマス、隨テ政府ハ只今提案理由ノ中ニ御說明ノアツタ通リ、事務ガ非常ニ煩雜デアルト言ハレテ居リマスルガ、基本法ノ鑛山法ガ警察取締規定ダケデアリマスカラ、斯ウシタ煩雜ナ條文ニ相成ツテ居ルト存ズルノデアリマス、隨テ是ニ於テハ卽チ重要鑛物增產法ハ、其ノ目的通リ今日マデ活用サレナカツタノデアリマス、重要鑛物增產法ハ大キナ期待ヲ以テ、五年前ニ制定サレタモノデアリマスケレドモ、徒ラニ寶刀ヲ抱イテ晝寢シテ居タダケニ過ギナカツタノデアリマス、當時ノ政府ノ說明ニ依リマスレバ、此ノ法案ハ鬼ニ金棒デアル、斯ウ言ツテ居リマスケレドモ、其ノ金棒ハ代用品デアツタト云フヤウナ結果ニ終リマシテ、今日マデ何等活用サレテ居ナイノデアリマス、大體重要鑛物增產法ハ、當時時局ノ逼迫化ニ對應致シマシテ、基本法改正ノ要ヲ認メナガラ、應急臨時立法ト致シマシテ、五年前、五年ノ期間附デ制定サレタモノデアリマスコトハ、諸君ノ御承知ノ通リデアリマス、當時政府ハ增產目的遂行ノ手段ト致シマシテ、鑛業者ニ事業ノ着手又ハ繼續ヲ命ジ、事業計畫ノ屆出義務ヲ課シ、或ハ增產ノ爲ニスル鑛業權ノ强制移轉、或ハ鑛區ノ整理斷行等ノ事業設備ノ新設、擴張、改良ニ關スル命令ヲモナシ得ルト致シテ居リマスケレドモ、其ノ效果ト云フモノハ、甚ダ薄カツタノデアリマス、然ルニ一方增產ノ必要日ニ〳〵逼迫化スルトハ言ヘ、之ヲ運行シ得ナカツタノハ、是ハ鑛山界ノ特質ト基本法ノ缺陷ノ結果デアラウト、私ハ思フノデアリマス、隨テ今更今後尙ホ五年間ノ情勢ノ推過ヲ見ナケレバ、鑛業法規ノ全體ノ再檢討ガ出來ヌト言ハレマスケレドモ、ソレハ私ハ理由ニナラナイト存ズルノデアリマス、事業ノ着手、許可、出願ノ制限、禁止、使用權ノ設定ニマデ及ンデハ、鑛業基本法ノ根幹ト云フモノガ、スツカリ破ラレテ居ルバカリデハナク、基本法ガ寧ロ增產ノ障碍ニナツテ居ルト云フコトヲ政府自ラ御認メニナツテ居ル點ダラウト思フノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ、政府モ民間モ、既ニ基本法ガ增產ノ障碍ニナツテ居ルト云フヤウナコトハ、今日大體認メラレテ居ルノデアリマスカラ、百尺竿頭一歩ヲ進メマシテ、戰力增强ノ基礎タル鑛業ノ綜合生產力ヲ增强セントスル事業法ノ創設ノ必要ヲ、痛感致ス次第デアリマス、之ニ反對スル人々ガアリマスレバ、ソレハ机上ノ事務屋デアリ、又ハ法律ノミニ囚ハレルヤウナ考ヘ方ヲ致シマシテ、今日ノ日本ノ鑛山界ノ情勢ヲ知ラザルモノト謂ハナケレバナラヌト、私ハ思フノデアリマス

第三ノ點ハ戰力增强ノ基礎タル原料資源確保ノ爲メ、卽チ赤字增產ノ非常手段ノ爲ニ、鑛業營團ヲ設クル必要アリト考ヘルガ、之ニ關スル政府ノ所見ヲ伺ヒタイノデアリマス、卽チ國策會社、帝國鑛業開發會社ノ性格ヲ發展變更セシメ、之ヲ營團化セシムル必要アリト考ヘルノデアリマスガ、其ノ理由ハ、鑛業界ハ勿論、一般國民モ既ニ帝國鑛業開發會社ノ株式營業會社ト見做シテ居ナイ點デアリマス、既ニモツト營團化シタヤウナ考ヘノ下ニ、帝國鑛發會社ニ期待ヲ掛ケテ居ル一般ノ情勢デアルト云フ點デアリマス、更ニ時局ノ新情勢ハ、其ノ性格ノ改變ヲ求メテ已ナイ點ガアルト思ハレルコトデアリマス、卽チ鑛山界ノ特質上、統制會ハ指導權ヲ鞏固ニスル必要上、片手ニ事業營團ヲ持ツベキモノデアルト考ヘルノデアリマス、勿論既設ノ優秀ナ事業ト對立スルモノデハナク、寧ロ協力支持シテ、卽チ增產ノ障碍ヲ除キ、生產資材ヲ供給スル、或ハ運輸ノ分擔、或ハ鑛區ノ整備等ノ事業ヲモ、積極的ニ强化支援スルノ途ヲ拓カントスル爲メデアリマス

前述ベマシタ二條項ヲ御尋ネ致シマシタノハ、單ニ法文ニ依リ、或ハ法律ニ依リ、命令ニ依ツテ增産ハ期セラレナイト云フ點カラデゴザイマス、一方ニ於テ基本法ヲ改正スルト同時ニ、一方ニ於テハ此ノ重要鑛物增産法ガ狙ツテ居リマス實行ノ團體ト致シマシテ鑛業營團ヲ以テ其ノ事業ヲ遂行セシメルト云フ、此ノ二本建ニ依ラナクシテハ、決シテ今日ハ增産ヲ期セラレナイト考ヘルノデアリマス、豐臣秀吉ノ苦心、德川家康ノ苦心、德川ノ時代ヲ切リ拓キ、豐臣ノ時代ト云フモノヲ築キ上ゲマシタノハ、何レモ偏ヘニヤハリ鑛山ニ對スル理解、所謂生産力擴充ノ要點ヲ握ツテ居ツタト云フ歷史ヲ、十分檢討致シマシテ、玆ニ商工省ハ鑛山行政ノ上ニ、一大劃期的ナ方策ヲ執ラレナケレバナラナイト、私ハ信ズルノデゴザイマス、殊ニ鑛山界ニ付キマシテハ、其ノ資金ガ固定シ、其ノ事業計畫ト云フモノハ、二年ヤ三年デ成立ツモノデハナイノデアリマスカラ、餘程確乎不動ノ政策ヲ今カラ樹立致シマシテ、日本ノ鑛業界ノ上ニ一大飛躍ヲスルヤウナ計畫ヲ立テナケレバナラナイト存ズルノデアリマス、單ニ重要鑛物增産法ト云フヤウナ强制法規ガ出ルコトニ依ツテ、增産ガ圖ラレルト云フヤウナ考ヘヲ、今日一擲サレマシテ、眞ニ日本ノ鑛山界ガ如何ナル政策ヲ持ツテ行クナラバ、鑛山ノ開發ガ出來、增産ガ出來ルカト云フ點ニ、十分ノ考慮ガナケレバナラヌト思フノデアリマス、明治初年ノ鑛山心得ノ方ガ、今日ノ鑛業法ヨリモ一歩進ンデ居リマス、鑛山心得ノ中ニハ、鑛石ヲ知ラザルモノハ、鑛山ヲ營マセナイト書イテアル、豐臣秀吉ハ、一山――一ツノ鑛山ハ一家デアリ、一城デアル、髮ノ毛一本ガ無駄ナヤウデアリ、指先ガ一本無駄ナヤウデアルケレドモ、是ハ人間ノ體トシテハ重大デアル、髮ノ毛一本喪ヘバ、直グニ人間ノ生命ニ影響ハナイトシテモ、能力ニ影響スル、指先一本傷メレバ、直グ其ノ人間ノ精力ニ影響スルカラ、鑛山ノコトハ小サイコトナガラ等閑ニ附スルナト云フコトヲ、鑛山心得ニ敎ヘテ居リマス、何レモ斯クノ如ク一ツノ政策ヲ持タナケレバ事務ダケガ多クナリマシテ、政治ガナイコトニナリマスト、徒ラニ事務ガ澁滯スルダケデアラウト考ヘマスノデ、速カニ鑛山政策ヲ樹立致シマシテ、增産ヲ圖ラレナケレバナラナイト信ジマスガ、之ニ對スル商工大臣ノ所見ヲ伺ヒタイノデアリマス（拍手）

第四ハ、重要鑛物ノ價格政策デアリマスガ、私ハ時間ノ都合上之ヲ委員會ニ讓ツテ、委員會ニ於テ十分此ノ點ヲ論議致シタイト存ジマス

以上三點ニ付テ商工大臣ノ明快ナル御答辯ヲ望ミマス（拍手）

（國務大臣岸信介君登壇）

○國務大臣（岸信介君）　我ガ鑛業政策ノ根本ニ關シテノ、重要ナル御質問デアリマシタガ、第一ノ大東亞共榮圈内ニ於ケル所ノ鑛業開發ニ付テ、我ガ國ノ鑛業ガ其ノ中心ヲナスモノデアルガ故ニ、我ガ國ノ鑛業政策ニ付テモ、大東亞共榮圈開發ノ基本政策トナルベキモノト思フガ、ドウダト云フ御尋ネデアツタト思ヒマス、御說ノ如ク、今日ノ我ガ國ノ鑛業ノ技術經營ノ水準ハ、決シテ世界ニ比ベマシテ、私ハ劣ラザルモノダト思ヒマス、全ク日本的ナ技術經營ガ長年ノ先輩ノ苦心ニ依リマシテ、我ガ國ニ確立セラレテ居ルノデアリマス、是ガ大東亞共榮圈ノ廣大ナル資源ノ今後ノ開發ト云フコトノ中心ヲ爲サナケレバナラナイノデアリマス、吾々鑛業政策ノ遂行ニ當ツテ居リマス者トシマシテハ、正ニ御說ノ如ク、大東亞共榮圈全體ノ開發ノ基本政策トシテ、我ガ國ノ鑛業政策ヲ確立シテ行カナケレバナラヌト考ヘマス、就テハ日本ノ鑛業法ヲ根本的ニ改正シテ、事業法的鑛業法ヲ制定スル必要ガアルヂヤナイカ、之ニ對スル所見如何ト云フ御質問デアリマシタガ、今日ノ鑛業法ガ相當古イ沿革ヲ持ツテ居リ、今日ノ我ガ國ノ鑛業界ノ實情竝ニ鑛業ニ對スル國家ノ要請ニ鑑ミマシテ、適當ナラザル點ガ多々アルコトハ御說ノ通リデアリマス、併シナガラ同時ニ國民經濟上、鑛業權ト云フモノハ非常ニ重要ナ權利デアリ、又之ニ關スル事業ト云フモノハ、重要ナ國策的ノ事業デアリマシテ、其ノ根本ニ相當深刻ナル影響ヲ與フベキ全面的ノ改正、此ノ鑛業法ノ現在ノ性格ヲ變ヘテ、事業法的鑛業法ニスルト云フノニ付キマシテハ、十分ナ研究ト檢討ヲ必要トスルモノダト思フノデアリマス、既ニ重要鑛物增産法五年ノ施行ノ成績ニ鑑ミ、又現下ノ鑛業上ノ要望ニ應ヘル爲ニ、政府ハ今回重要鑛物增産法中ニ付テ、重要ナ事項ノ改正ヲ致シテ居ルノデアリマス、或ハ是等ノ規定ハ現行鑛業法ノ採ツテ居リマスル主義トハ、根本的ニ相容レナイ點モアルノデアリマス、サウ云フ重要ナ改正ハ緊急ノ要ニ應ズル、而シテ鑛業法ノ根本的改正ニ付キマシテハ、尙ホ愼重ニ研究シタ上ニ於テ、時局ノ要請ニ應ズルヤウナ立派ナ鑛業法ヲ制定致シタイト考ヘマス

最後ニ帝國鑛業開發株式會社ヲ鑛業營團ニ改組スル意思ハナイカト云フ御尋ネデアリマシタガ、今日ノ我ガ國鑛業ノ實情ニ鑑ミマシテ、御意思ニ付キマシテハ、大イニ傾聽スベキモノガアルト考ヘマス、而シテ今回提案致シテ居リマスル帝國鑛業開發株式會社法中改正法律案ニ於キマシテモ、既ニ一般株式會社トハ違ツテ、鑛業整備ニ關スル仕事ヲモ、其ノ目的ノ中ニ追加致シテ居リマシテ、帝國鑛業開發株式會社トシテハ、其ノ經營運營ノ根本ト致シマシテハ、御說ノ如ク單純ナル營利會社トシテデハナクシテ、營團的ノ意味ヲ以テ、是ガ運營ヲサレナケレバナラヌノデアリマス、既ニ開發會社ガ設立以來今日マデノ實績ニ見マシテモ、相當サウ云フ意味ニ於キマシテ運營サレテ居リ、又足ラザル點ニ付キマシテハ、今後十分ナ監督ニ依リマシテ、其ノ鑛業的使命ヲ十分果サセルヤウニ指導致シタイト考ヘテ居リマス（拍手）

○議長（岡田忠彦君）　高橋壽太郎君

〔高橋壽太郎君登壇〕

○高橋壽太郎君 私ハ只今議題ニ相成ツテ居リマス兩案ニ付テ二、三ノ質疑ヲ致シタイト存ジマス

第一ハ日本産金振興會社ノ貸付金ノ處理ニ關スルコトデアリマス、日本産金振興會社ハ、昭和十三年産金ノ飛躍的大增加ヲ圖ル爲ニ、金鑛業ヘノ融資及ビ貧鑛開發ヲ主ナル目的トシテ、設立ヲセラレタノデアリマス、爾來茲ニ四年有餘、業務漸ク其ノ緒ニ着カントスル際ニ、政府ノ産金政策ノ轉換ト共ニ、帝國鑛業開發會社ニ吸收統合セラレルコトニ相成ツタノデアリマス、此ノ兩者ノ統合ニ伴フ業務ノ引繼ノ上デ、最モ重要ナル事項ハ、日本産金振興會社ノ多額ノ貸付金ノ處理デアラウト思ヒマス、傳フル所ニ依レバ、其ノ金額二億圓ヲ超過シテ居ルト云フコトデアリマス、恐ラク此ノ中ニハ回收不能ナルモノモ相當アラウト存ジマス、併シナガラ一概ニ之ヲ不良貸付ナリト、即斷ヲスルコトハ其ノ當ヲ得タモノデハナイト存ジマス、ナゼナラバ産金政策ニ變化ガナク、從來通リノ手厚イ保護助成ガアリマシタナラバ、金鑛業モ順當ニ發達ヲ致シマシテ、其ノ結果貸付金ノ回收モ容易デアツタラウト思ヒマスガ、何サマ大東亞戰爭勃發ノ爲ニ事態ハ一變致シマシテ、政府ハ口ニハ産金政策ニ變化ハナシト屢〻言明ヲサレタノデアリマスガ、其ノ實情ニ於テハ、決シテサウデハナカツタ、所謂重點主義ノ名ニ於テ資材、勞力等ノ供給ヲ抑制サレタノデアリマス、斯クノ如クシテ金鑛業ハ漸次不振ノ一路ヲ辿リ、廢山、休山、相次グニ至ツタノデアリマス、斯クテハ回收可能ナルベキ貸付金モ、遂ニ不可能ニ終ルコトハ當然ノコトデアリマス、此ノ點ノ事情ハ政府モ深ク諒トセラレテ、此ノ國策變更ニ伴フ轉廢業者デアルベキ是等ノ金鑛業者ニ對シテハ、同情ヲ以テ對處セラレナケレバナラナイト存ジマス、況ヤ是等ノ貸付ニ際シテハ、商工省、大藏省カラ派遣サレマシタ監理官ノ承認、若クハ諒解ノ下ニ行ハレタ、謂ハバ政府ノ裏書ヲシタ貸付金デアリマスルカラ、此ノ邊ノ事情モ能ク御酌取リノ上、事後ノ批判ニ基ヅキ、冷嚴ナル態度ヲ以テ臨ムヤウナコトノナイヤウニセラレタイノデアリマス、之ニ對スル政府ノ御考ヘヲ大藏大臣カラ特ニ伺ヒタイト存ジマス

尙ホ此ノ際政府ニ御願ヒ致シマスコトハ、産金政策ノ轉換、或ハ日本産金振興會社ノ統合等ノ關係カラシテ、多クノ金鑛業者ハ一抹ノ不安ニ襲ハレテ居リマス、政府ハ此ノ際今後ノ産金政策ニ對シテ、是等金鑛業者ノ向フ所ヲ指示セラルル必要ガアルト存ジマス、一方又帝國鑛業開發會社ノ立場カラ見マスルト、不徹底ナル貸付金ノ處理、或ハ整理ノ見透シノ付カナイ貸付金ヲ引繼グト云フコトニナリマスト、是ハ赤字ノ持參金ヲ持込マレルヤウナ關係ニナリマシテ、將來累ヲ帝國鑛業開發會社ニ及ボスコトニナルノデアリマスカラ、此ノ點ハ篤ト政府デ善處ノ方法ヲ講ゼラレンコトヲ希望スルノデアリマス、是等ニ對スル方針モ併セテ伺ヒタイノデアリマス

次ニ質問ノ第二點ハ、帝國鑛業開發會社ノ規模ヲ擴大强化スルノ必要ナキヤト云フコトデアリマス、從來帝國鑛業開發會社ハ、重要鑛物ノ增産ヲ目的トスルト云フ任務ヲ帶ビテハ居リマシタガ、政府ノ指示ニ基イテ、鐵、石炭增産ニ關シテハ手ヲ染メナカツタノデアリマス、之ニ對シマシテハ議會ニ於テモ屢〻論議ヲサレタ所デアリマスガ、ソレハ姑ク措イテ、現下ノ狀況、鐵、石炭ノ增産ガ戰力增强ニ至大ノ關係ガアリ、總理大臣ガ自ラ直接ノ指揮ヲ執ツテ、是ガ增産ニ邁進ショウトスル時ニ、帝國鑛業會社ガ手ヲ拱イテ、之ヲ傍觀スベキデアリマセウカ、政府モ是ダケ思ヒ切ツタ措置ヲ執ル以上ハ、其ノ國策遂行ノ機關デアル帝國鑛業會社ヲ宜シク動員シテ、大イニ之ニ寄與セシムベキデアラウト思ヒマス、ソレニハドウシテモ帝國鑛業開發會社ノ擴大强化ノ策ガ伴フト思フノデアリマスガ、政府ノ之ニ對スル御方針ヲ伺ヒタイノデアリマス

質問ノ第三點ハ金屬ノ價格政策ノコトデアリマス、日支事變以來、金屬、殊ニ銅、鐵ノ建値ト云フモノハ、餘リ値上リヲシテ居リマセヌ、併シ銅、鐵ヲ原料ト致シマスル製品ハ、隨分暴騰ヲシテ居ルコトハ顯著ナル事實デアリマス、即チ今日ノ狀況ニ於テハ、原料安製品高デアリマス、是ハ重要鑛物增産ノ見地カラ申シマスレバ極メテ不利、又低物價政策ノ見地カラ見テモ好マシイコトデハナイ、ドウシテモ是ハ原料高製品安、ソレデ增産ヲ刺戟シ、ソレニ依ツテ低物價政策ヲ實行スルト云フコトニ相成ラナケレバナラヌト存ジマス、政府ハ鐵ニ對シテハ、所謂製鐵補償制度ヲ設ケマシテ、幾分其ノ匡救ノ策ヲ講ジテ居ラルルノデアリマスガ、併シ此ノ補償制度ト云フモノハ、種々ナル不利ヲ伴フノデアリマシテ、決シテ鐵增産ノ目的ヲ達シ得ル良策デハナイノデアリマス、恐ラク是ハ彌縫的ナ應急策ダト申シテモ宜シイト思ヒマス、其ノ不利ノ第一點ハ、此ノ制度ノ極メテ效キ目ノ惡イコトデアリマス、何シロ事ガ起ツテカラ、一年乃至一年半經過シテ後ニ、其ノ補償金ガ下ルノデアリマスカラ、隨分「スローモー」ト申シマスカ、廻リクドイ制度デアリマス、世ノ中デハ覿面ニ效果ノ現ハレルコトヲ現金ダト申シマスガ、價格引上ゲハ即現金制度ノ適用デアリマス、恐ラク官廳會計ニ於テハ、年度初メノ百圓モ、年度末ノ百圓モ同一ノ百圓ナリト云フ御考ヘヲ持タルデアリマセウガ、産業界ニ於テハ決シテ左樣ナコトハナイノデアリマス、諺ニ謂フ明日ノ百ヨリ今日ノ五十、現金ノ欲シガルコトガ常デアリマス、其ノ現金ヲ早ク與ヘテヤツテ、即效的ニ時效ヲ擧ゲルト云フコトガ、鐵增産ノ主ナル手段デナケレバナラナイト存ジマス、第二ニハ手續ノ煩瑣ナコトデアリマス、補償金ヲ申請スル側デモ、又之ヲ受ケル政府側デモ、隨分是ハ手數ノ掛ル仕

事デアリマス、今日行政ノ簡素化ガ叫バルル時ニ、斯ウ云フ繁文褥禮ナ事務ヲヤツテ居ツテ宜イカドウカ、是ハ大イニ研究ヲ要スルコトト存ジマス、總テノ法制ハ餘リ手數ガ掛ラズニ、官民共ニ手ヲ燒カナイデ、スラ〱自動的ニ運營サレルコトデアリマス、ソレニハ補償制度ノヤウナ煩ハシイ方法ニ依ラズ、單刀直入、簡明直截ニ金屬價格ノ値上ヲ行フコトデアリマス、第三ノ缺點ハ普遍性ノナイコトデアリマス、論ヨリ證據、今日ノ製鐵補償金ハ大製鐵會社ノミガ其ノ恩典ニ浴シテ、群小ノ製鐵會社ハ、之ニ預ラナイヤウデアリマス、今日國家總力戰ノ際ニ、一部ノ者ガ恩典ニ預カツテ、同樣ノ仕事ヲシテ居ル者ガ、恩典ニ預ラナイト云フ法ハナイト思ヒマス、是カラ總理大臣ガ施政演說ニ於テ示唆ヲセラレマシタ新式ノ製鐵法、其ノ內容ニ於テハ、小型熔鑛爐ヲ澤山ニ增設シ、或ハ今マデ知レナカツタ斬新ナ製鐵法ニ依ツテ、此ノ急場ノ鐵ノ增產ヲ完成シヨウトスル際デアリマス、之ニハ幾多群小ノ製鐵業者ヲ保護助成ヲシテ參ラナケレバナリマセヌ、普遍性ヲ缺イタ補償制度ハ此ノ目的遂行ノ爲ニ不向キデアリマス、第四ハ、補償制度ハ兎角現狀維持ニ流レ易イ、小成ニ安ンズルト云フコトニナリマシテ、國民ノ創意ト工夫トヲ發揮セシムルコトニハ適シナイノデアリマス、政府ノ常ニ口ニサレル創意ト工夫、之ヲ十分ニ發揮スルニハ、金屬價格ノ引上ニ依ル外ハナイト存ジマス、銅ニ付テハ、是ハ多ク觸レル時間ガアリマセヌガ、何等ノ補償制度モナク、洵ニ不振ノ一路ヲ辿ツテ參ツテ居ルノデアリマス、曾テ我ガ國ノ銅產モ經濟品位ガ四%乃至五%デアツタノデアリマスガ、今日ハ遙カニ低下シテ一%內外、中ニハ千分臺ノ品位ノモノヲ扱ハザルヲ得ナイヤウニナツテ居リマス、先程川俣君ノ言及セラレタ如ク、正ニ赤字增產デアリマス、此ノ儘ニ推移シテ行ツタラ引合ハナイ、產業ハ成立チマセヌ、永續性ガアリマセヌ、日本ノ銅鑛業ノ前途洵ニ憂慮ニ堪ヘナイモノガアリマス、由來我ガ國ニ於ケル幾多ノ事業界ノ成績ヲ檢討致シテ見マスト、一番割ノ惡イモノハ鑛業デアリマス、此ノ鑛業ノ中デモ銅山ガ一番慘メナノデアリマス、銅ノ必要ナルコトハ申スマデモアリマセヌ、今回ノ五大品目ノ中ニハ外レマシタケレドモ、森山政府委員ガ委員會ニ於テ言明シタ所ニ依ルト、次ニ來ルベキ重要品目ハ、銅デアラウト云フコトヲ申サレテ居リマスガ、正ニ其ノ通リデアリマセウ、此ノ銅ノ增產ニ付テハ、政府ガ餘程意ヲ用ヒテオヤリニナラナケレバナリマセヌ、大東亞共榮圈內ニ於テモ、銅ノ資源ハ餘リ多クアリマセヌ、結局我ガ國內ノ銅山ヲ十分ニ開發スルヨリ外途ハナイノデアリマス、斯樣ニ銅鐵ノ建値ノ引上ノコトヲ申シマスレバ、政府ハ或ハ低物價政策ノ一角ガ崩レ掛カルト云フ、例ノ御答辯ガアラウカモ知レマセヌガ、ソレハ米ノ値段、サウ云フモノニ付テハ御說ノ通リデアルカモ知レマセヌガ、モウ既ニ鐵ト銅ハ、國民カラ隔離シテ居リマス、之ヲ値上シタ所ガ、國民生活ノ上ニハ、格別ノ變化ハナイノデアリマス、今ヤ銅鐵ノ回收ハ隨分徹底ヲ致シマシテ、神社佛閣ノ什器、銅像マデモ應召セシムルト云フ所マデ至ツテ居リマス、是等ノ銅鐵ハ地金ニシテ見レバ、僅カノ價格ノモノデアリマスガ、此ノ原價ト云フモノハ莫大ナモノデアリマス、ソレダケ國家ノ富ガ消耗セラレテ居ルト見ナケレバナリマセヌ、政府ハ街ノ鑛山ヲ掘ル、銅鐵ノ回收ニ示ス熱意ニ劣ラザル熱意ヲ以テ、本當ノ山ノ鑛山ヲ掘ツテ貰ヒタイト思フノデアリマス(拍手)街ノ鑛山ハ一遍掘レバ終リマスガ、本當ノ山ノ鑛山ハ永續性ガアリマス、地下ノ資源ヲ世ノ中ニ出スコトデアリマス、ドウカ政府ハ是等ノ關係ヲモ勘案セラレテ、適當ナル金屬ノ値上ヲ行ヒ、以テ重要鑛物ノ增產ヲ刺戟シ、戰力增强ノ早急ノ間ニ合フヤウニ御努力アランコトヲ望ムノデアリマス(拍手)本來今日行ハレテ居リマス銅鐵ノ建値ト云フモノハ、ドウ云フ風ニシテ生レテ來タカ、其ノ沿革ヲ調ベテ見マスト、是ハ自由主義經濟、自由貿易時代、輸出入ノ關係カラ、自然ニ生レタ產物デアリマス、謂ハバ英米依存時代ノ遺物デス、今日我ガ國デハ英米思想ハ、心ノ底カラデモ排擊シナケレバナラヌ、斯ウ云フヤウニ唱道セラレテ居ル際ニ、毫モ此ノ英米依存ノ遺物ニ、未練ヲ殘ス必要ハナイト存ジマス、ドウカ政府ハ自主的見地ニ立ツテ、適正ナル金屬價格ノ制度ヲ定メラレンコトヲ切望ニ堪ヘナイノデアリマス、以上ヲ以テ私ノ質問ヲ終リマス(拍手)

(國務大臣岸信介君登壇)

○國務大臣(岸信介君) 御答ヘヲ致シマス、今日銅鉛等、最モ增產ヲ要スル金屬ニ凡ユル資材、勞力等ヲ集中致シマスル關係上、金ニ對シテハ從來ノ如ク、之ニ非常ナ重點ヲ置イテ、之ヲ開發スルト云フ政策ノ變更ヲ致シテ參ツテ居リマス、併シナガラ是ハ決シテ金ガ不必要デアルト云フ考ヘ方カラ出テ居ル譯デハナイノデアリマシテ、此ノ現下ノ情勢ニ於テ、金ヨリモ尙ホ必要ナ物ニ力ヲ入レナケレバナラナイ、斯ウ云フ情勢カラ來テ居ル譯デアリマス、隨ヒマシテ金ノ政策ノ變換ニ伴フ金鑛業ノ整理ニ關シマシテハ、政府ト致シマシテ、十分過去ニ於ケル政策ニ依ツテ、增產ニ特別ノ協力ヲサレタ金鑛業ガ整理サレナケレバナラナイト云フモノニ對シマシテハ、十分ニ其ノ前後措置ヲ講ズル考ヘデアリマス、又產金振興株式會社ガ帝國鑛業開發株式會社ニ合併セラレマシタ後ニ於キマシテハ、サウ云フ整理ニ關スル仕事ハ、帝國鑛業開發株式會社ニ於キマシテ、十分善處スル考ヘデアリマス、又日本產金ヨリ鑛發ニ引繼ガルベキ債券ノ中、回收ガ不可能デアルト云フヤウナモノニ關シマシテハ、將來鑛發ニ對スル配當補給金ノ交付ニ依リマシテ、國庫ノ負擔ニ於テ之ヲ銷却スルコトト致シマシテ、合併ニ依ツテ鑛發ノ經理ニ惡影響ヲ及ボスヤウ

ナコトハ、ナカラシムル考ヘデアリマス

次ニ帝國鑛業開發株式會社ノ擴大强化ノ問題デアリマスガ、御説ノ如ク鑛業開發ノ中樞ノ機關ト致シマシテ、鑛業開發株式會社ガ持ツテ居ル使命ハ、如何ニモ重大デアリマシテ、其ノ規模ヲ擴大强化スルコトハ、正ニ其ノ必要ガアルト思ヒマス、唯御質問ニアリマシタ鐵、石炭ニ關スル問題デアリマスガ、鐵ニ付キマシテハ、鑛發ニ於キマシテ、既ニ融資等モ行ツテ居ルノデアリマス、從來日本內地ニ於ケル鐵鑛石ト云フモノガ、日本ノ鐵鋼業ノ上ニ、餘リ重要ナル意義ヲ持ツテ居ラナカツタ時代ニ於キマシテハ、鑛發ト致シマシテハ、銅其ノ他ノ所謂外鐵金屬ニ重キヲ置イタノデアリマスガ、最近國內ノ鐵鑛石ノ開發ヲ必要トスル情勢ニ於キマシテハ、此ノ開發ニ必要ナル融資等モ行ツテ居リマスガ、之ヲ更ニ今後積極的ニ實施セシムル考ヘデアリマス、石炭ニ付キマシテハ、日本石炭ト云フ會社ガアリマシテ、此ノ方ニ於テ金融其ノ他ノ措置ヲ講ジテ居リマスノデ、鑛發ニ於テハ是ハ取扱ハナイ方針デアリマス

次ニ鑛物ノ價格ノ點ニ付テノ御質問デアリマス、現在ノ金屬類ノ價格ガ、適正デアルカドウカト云フ問題ニ關シマシテハ、私共常時是ガ檢討ヲ致シテ居リマシテ、增產ニ必要ナル價格ヲ、生產者ノ爲ニ確保スルト云フコトニ付キマシテハ、萬全ノ方策ヲ講ジテ居リマスシ、今後モ講ジテ行ク積リデアリマス、而シテ申スマデモナク今日ノ價格ハ、御説ニモアリマシタガ、決シテ英米等ト自由交易ヲシタ當時ノ國際價格ノ水準ヲ本トシテ居ルモノデハナクシテ、原價計算ヲ基礎トシテ、各山ニ於ケル生產費ト云フモノヲ基礎ニ決定ヲサレテ居ルノデアリマス、唯之ヲ直チニ販賣價格ノ方ニ負擔セシムルカドウカト云フ問題ニ付キマシテハ、鐵ノ如キモノニ付キマシテハ、御承知ノ通リ補償金制度ノ活用ニ依ツテ、之ヲ行ツテ居リマス、又銅其ノ他ノ物資ニ付キマシテハ、過去ニ於キマシテ相當多額ノ助成モ致シテ來テ居リマス、而シテ此ノ補償金制度ニ付キマシテハ色々ナ論議ガ行ハレテ居リマスガ、今御質問ニアリマシタ一、二點ニ付キマシテハ、事實ニ反シテ居リマスノデ、明瞭ニ申上ゲテ誤解ヲ解イテ置ク必要ガアルト思ヒマス、今回鐵ノ增產ヲ圖ル爲ニ、小型熔鑛爐、其ノ他從來ノ製鐵法ニ依ラナイ、幾多ノ方法モヤラレテ居リマス、是等ノモノニ此ノ銑鐵補償金ノ制度ガ行カナイカノ如キ御質問デアリマシタガ、是ハ總テ行クノデアリマス、今日銑鐵補償金ニ付キマシテハ、鐵鋼原料統制會社ガアリマシテ、是ガ一切ノ銑鐵ヲ買取ツテ居ルノデアリマス、是ハ大キナ會社ノ銑鐵モ買ヘバ、小サイ會社ノモノモ全部買ツテ居リマス、今後小型熔鑛爐ヤ、其ノ他ノ新シイ方法ニ依ラレルモノモ、全部買フノデアリマス、ソレデ買フ値段ハ十分原價計算ヲ致シマシテ、生產ガ續ケラレルヤウナ、所謂適正價格デ之ヲ買取ルノデアリマス、サウシテ此ノ會社ヲシテ賣ラセル場合ニ於キマシテハ、政府ハ現在ノ價格デ賣ラセル考ヘデアリマス、サウ致シマスト、當然此ノ會社ガ相當ナ損失ヲ致ス譯デアリマシテ、此ノ損失ヲ政府トシテハ補償スル譯デアリマスノデ、手續上其ノ他ニ於キマシテモ、決シテ他ノ補償金ヤ、奬勵金見タヤウナ手數ヲ、各生產會社ニ與ヘルモノデハナイノデアリマス、此ノ點ハ明瞭ニ申上ゲテ置キタイト存ジマス(拍手)

〔政府委員谷口恒二君登壇〕

○政府委員(谷口恒二君)　只今ノ御質問中、日本產金振興ノ貸付金ニ關スル部分ニ付キマシテ、御答ヘ申上ゲマス、今回日本產金振興ト帝國鑛業開發ガ合併シマスニ付キマシテハ、從來日本產金振興ガ產金業者ニ貸付ケテ居リマスモノハ、之ヲ回收致サナイデ、其ノ儘引繼グコトニ相成ツテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ此ノ際產金業者ガ、急激ニ資金ノ回收ヲ强制サレルト云フヤウナコトハ、ナイコトニナツテ居ルノデアリマス、尙ホ此ノ貸付金ノ今後ノ處理方ニ付キマシテハ、產金政策、又產金業ノ整備ノ方針等ニ從ヒマシテ、適當ニ處理シテ參リタイト存ジテ居リマス、尙又此ノ貸付金ガ帝國鑛業開發ニ引繼ガレルノデアリマスガ、其ノ引繼ガレマスニ付キマシテモ、帝國鑛業開發ノ資產內容ノ全般ニ、大シテ惡影響ヲ與ヘルコトニハ立至ラナイト、只今ノ所デハ考ヘテ居ルノデアリマスガ、御質問ノ點ニ付キマシテハ、今後十分注意スルコトニ致シタイト存ズルノデアリマス(拍手)

○議長(岡田忠彥君)　是ニテ質疑ハ終了致シマシタ、各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選擧ニ付テ御諮リ致シマス

○森下國雄君　日程第八及ビ第九ノ兩案ハ、一括シテ政府提出石油專賣法案外二件委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彥君)　森下君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長(岡田忠彥君)　御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ――是ニテ議事日程ハ議了致シマシタ、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午後四時四十四分散會

衆議院議事速記錄第九號中正誤

頁	段	行	誤	正
一六五	三	二九	臨時第一號	臨第一號

內閣印刷局